**№8　テーマ『時流独創の生き方』**

**講話日2004年5月24日**

**司会：それでは、思風先生、お願いいたします。**

**芳村：はい。皆さん、こんにちは。**

**一同：こんにちは。**

**芳村：毎日の業務で本当にお疲れのところ、また勉強をしていただいて、ありがたく思っております。今日のテーマは「時流独創の生き方」ということで、先ほど、久保川社長さんも、自分自身で仕事をつくり、自分自身で結果をつくり、自分自身で成長させていくね、そういうこの自創という、自分で自分を創造する、そういうこのことをしなきゃならんということをおっしゃいましたけど、今日はちょうどそのことについてのお話をさせていただくわけであります。一応、テーマとして４つに分けてお話をするんですけど、まず時流をつかむというね、これは前回もお話をしたことですけども、とにかく仕事をしていくうえで、またこの人生何十年か生きていくうえでですね、この時の流れというものをどういうふうにつかみながら、その時の流れに乗って、またその時の流れに先駆してですね、この自分の仕事、人生、生き方というものを考えるか。これは非常にやはり大きな人生のテーマであります。**

**まず、この今、まだ激動の時代といってですね、新しい時代がやってきているわけではない。まだ古い時代から新しい時代への過渡期にあるような状況ですので、その意味では、1980年代から続いておる激動というものがですね、まだまだ世界においては、これからもっともっとその振幅の幅がですね、大きくなっていくだろうというふうに、言うことができるような状況です。そういうこの時流というのは、いったいどういうことなのかというと、４項目書いてありますけども、第１番目は、この世界全体が西洋の時代から東洋の時代へと大きく転換していく。すなわち、この西洋的な価値観からですね、東洋的な価値観へ、あるいは西洋的なものの考え方から、東洋的なものの考え方へ、そういうような大きな転換がなされていく。住宅においても、西洋的な建築からですね、この新しい東洋的な建築に、この建築そのもののですね、要求が変わっていく。そういうふうなですね、ことを考えられなければならない。**

**しかし、この東洋的といっても、東洋の伝統が単に復活するだけじゃなくってですね、新しい東洋の文化というものをつくっていくということになりますので、古いものがそのままこう復活するわけではない。だけども、その中には、東洋人が納得できるようなですね、東洋的な価値観に基づく、そういうこの建築というものがですね、もっともっと素晴らしい、成長した形で、あるいは、西洋的なこの建築の影響も受けながら、そのいいところを取り入れながら、東洋的な考え方がリードしていくというふうなね、そういうふうな新しい建築のあり方もこれから考えていかなければならない。久保川社長さんが、もうあとね、何年か、何十年かすると、社長を引退され、会長を引退され、君たちにこの会社を渡していくんだという、そういう計画を述べられましたけども、社長さんのリーダーシップがなくなったら、皆さん方がそれに代わってリーダーシップを取りながらですね、このアサヒグローバルを世界的な企業に成長させていく、世界トップの水準を持ったですね、住宅を供給していく。そういうふうなこの意識になってもらわなければならないと。**

**西洋的な価値観というとですね、西洋というのは、なんでもこうちゃんと数値で決めてしまうんですよね。だから、僕の着ている服でもそうです。皆さま方が着ていらっしゃる服でもそう。ちゃんと寸法が決まってるわけですけど、東洋的な価値観というのは、その寸法がルーズ。和服でもね、東南アジアの方々が着てるような、あの服でもね、太っとっても、痩せとっても着られるというね、実に柔軟性があってですね。そのほうがまた、ある意味では変化に対応できる、そういうこの可変性があって、かえってそれが合理的というよりも、非常に便利だというね、ところもあるわけであってですね、そういうふうなこの服装の点でもね、そういうこの数値によってきちっと決められておったら、ちょっと太ったり、ちょっと痩せたりすると、なんかみっともなくなるわけですけども、この東洋の服装というのは、そういうふうな数値の影響を受けない、そういうところがある。そういうこともですね、必ずやまた住宅の考え方にも影響してくるというところがですね、あったりするかもしれません。**

**とにかくは、大きな意味でですね、この時代は、西洋の時代から東洋の時代へ、これからアジアが燃える。そういうことを意識しながらですね、われわれは時代に対応していく。あるいは、今の自分の意識の転換を図らなければならない。まだまだ西洋に目が向いてるかもしれません。まだまだ欧米に目が向いてるかもしれませんけども、われわれの関心は、これからアジアへとね、その目の方向を変えていくという、そういう意識で、これからの流れをわれわれはつくっていかなければならないと思います。**

**それから、２番目の時流というのは、この理性の時代である近代から、次の新しい時代である感性の時代へと、この人間の精神原理がですね、変わっていくんだということですね。これは、この人間の本質が理性だというふうに考える時代から、人間の本質は感性だと考えるというですね、そういう時代へと変わっていく。理性というものを本質と考えれば、人間は完全性を要求するような、そういう生き方をするけども、感性を原理に考えるならばですね、この個性を原理にして、そして、その理屈よりも、心の豊かさを優先させるというですね、そういうふうな対応ができてくるわけですよね。そういう人間性の変化が今、求められておるんだと。なんでもかんでも、理屈で相手を言い負かす、理屈さえ通ればそれでいいというふうなですね、そういうことで、心を無視し、理屈故に相手の心に傷を付けですね、理屈故にお客さんの心証を害しですね、理屈故に対立をつくってしまうという、そういう人間の時代は終わったわけですね。**

**これからは、理屈も大事なんだけども、だけども、まずは心を優先させて、心豊かなね、人の心の痛みがわかるようなね、あるいは、お客さんの気持ちをまず第一に優先させながらですね、その線に沿っていろんなことがちゃんと理屈で説明できるというようなね、そういうこの理性を手段能力に使って、まず心を優先させる。気持ちを優先させる。そういうふうなこの対応がですね、人間関係においても、また仕事の面においてもですね、なんて心豊かな、なんて心のある仕事の仕方なんだろうとね、言ってもらえるような、そういうふうなこのことが要求される時代になってきておる。これが理屈じゃない、心が欲しいというね、この命の叫びとなって、今、出てきているわけですよね。とにかく理屈をあまり言われるとむかついてくると。心が欲しい。みんなこの愛されたい、認めてもらいたい、わかってもらいたい、褒めてもらいたい。そういう気持ちがどんな人にもある。その意味で、そういう気持ちをこう、重要視しながらですね、その気持ちを重要視しながら、言葉を遣い、理性を使い、対応していく。そういうふうなことがですね、今、要求されてきておるわけですね。**

**とにかくこの理性から感性へと、人間のこのいろんなことをする場合の精神原理がですね、大きく変わりつつある。そのことをですね、われわれは意識しながら行動し、仕事をし、言葉を吐くというですね、ことをしないと、なかなか物事はうまくいくものも、うまくいかなくなってしまうというね、そういうこうつまずきが生じてくると思います。やっぱり時代の価値観に合わないと、受け入れられませんからね。その代わり時代の価値観に合うと、それが歓迎されて、称賛されて、物事がうまくいき始めるというね、そういうこの時代の要求、社会の要求、歴史の要請というものをどれだけ自分がしっかりとつかんでね、それに対応する、この生き方、言葉遣いというものをしていくかということは、これは非常にあらゆることをする場合に、基本的に大事なことであります。**

**３番目は、今、すべての分野で原理的変革が求められておると。単なる改良、改革というね、表面的なアレンジメントだけではなくってですね、今、求められておるのは原理的変革であると。原理的変革というのは、物事を原点にかえって、もういっぺん考え直してみる。そこからあらゆるものをご破算にして、ゼロにして、そこから本当に今、求められておるものはなんなのか。本当に今、大事なものはなんなのか。本当にどうすればよいのか、過去の固定観念、先入観念に縛られることなくですね、もういっぺんゼロになって、原点にかえって、もう一度、この根本から考え直してみる。そういうふうなですね、この姿勢が、自分の生き方においても、仕事の仕方においても、またこのさまざまな商品のあり方においてもですね、すべての面において、原点から、原理から、もういっぺん、この考え直してみる、立て直してみる。そういうふうなですね、この力が今、求められておるっちゅうことですね。**

**これも、仕事というか、産業的な面から言うと、業態の転換というようなことがね、言われております。業態の転換というのも、やっぱりこれは、仕事の内容における原理的変革ということで、今までと同じことをやっておったんでは、完全にもう駄目だと。だけど、どういうふうにその違いをつくっていく、どういうふうなこの方向性に変えていくかということを考えるとですね、そこにやっぱり、この歴史の流れ、時の流れ、時流をつかむということが、非常に大事な問題になってくるわけですね。とにかく自分の意識を固定観念、先入観念から解き放つということをしなければならない。人を見る場合でも、あいつはこういうやつやというのは、そういう見方をしたらいかんと。常に初めて会った人のごとく接する。それがこの先入観念なしに、固定観念なしに、色眼鏡を掛けずに、生のその人を見る。生のそのものを見る。生の現実を見る。そういう力なんですね。それが今、要求されておるわけであります。**

**何かしら、そういうこの先入観念、固定観念を持ってものを見るということがですね、自分の成長を妨げておるし、また、固定的なものの見方をすることによって、相手をも縛っておる、相手を苦しめておる。また自分の成長をも、それが阻害しておる。そういうふうなことになってくるわけなので、今、この原理的変革、ゼロにかえってですね、もう一度、あらゆるものを根本から考え直してみる。先入観念、あるいは固定観念に支配されないで、いろんなものを見つめることができる力。人間関係においては、毎日毎日、会っててもね、初めて、今、会ったかのごとき接し方。これがこのみずみずしい新鮮さをね、つくり出すわけであります。だからといって、そんなばかみたいに、毎日毎日、会ってるのにね、初めてお会いしましたね。そういうばかなことは言う必要はないんですけどね。自分の意識の中でね、今、初めて会ったかのごとく新鮮さで、その人を見つめてみる。すると、ものすごくね、好奇心に満ちた、きらきらした目でそのものを見つめることができるんですよね。そんなことばっかりでもいきませんけどね、そういうこともね、時には非常に大事なことがある。物事の継続性という積み重ねも大事なんですけども、時には過去を断ち切ってね、新鮮な目でものを見るということによって、いろんなことにまた気付くということもありますので、ぜひそういうこともね、考えてみてもらいたい。**

**４番目は、世界文明の中心がアメリカから日本の真上にやってきておるというですね、そういうこの今、時代なんですよね。ということは、このわれわれは、どういうことをする場合でもですね、今、自分のやっておる、そのことにおいて、自分は世界一の人間になる。今、自分のやっていることを通して、自分を世界のトップに立たせるようなね、そういうこの人間にしていくという、そういうことを考えなければならない。建築においてもですね、アサヒグローバルが世界のトップのね、建築会社になる。アサヒグローバルが世界の建築の頂点を極める。世界の建築会社は、アサヒグローバルを目標にやってくるというようなね、そういう時代をつくっていくのが、これからの時代の生き方であります。その意味においては、自分が設計をやっておったなら、俺は設計で世界のトップに立ったるんやと。世界の設計のこの技術者は、俺を目標に、俺を神様にして、俺を仰ぎ見ながら付いてくるんやってね。それぐらいのこの自分の目標を立ててですね、そしてこの世界に目標を与えてあげることができるようなですね、そういうこの価値のある自分になることを目指す。そのことがね、今、日本人には、すべての面において求められておる。それがこの世界文明の中心というものを担っておる国家の、国民の意識じゃなければならない。**

**今までは、アメリカ、ヨーロッパね、欧米が目標になっておった。現在でも多くの日本人、東洋人はね、まだまだ欧米を見て、その欧米のこの現在の水準を目標にして、理想にして、それに追い付け、追い越せというような、そういう気持ちでまだやってる国がほとんどですけども、だけども、もはや日本はそういう段階を脱しておる。今、世界の経済を支えておるのは日本の金である。そして、アメリカ人が急速にその独善性故にね、この自己中心的なこの愛国心にとらわれてですね、そして、その自分の考え方を世界に押し付けるような、そういう独善的な生き方をしてしまっておる。自分の国の国益に合わないことは、いかなる善なることも全部反対してしまうというですね、そういうふうな状況にアメリカは落ちてしまっておる。であるが故に、もうすでに世界のリーダー、世界を納得させ、また世界をよりよい方向性に導いていく力をアメリカはもうなくしてしまって、自分だけのことを考え始めてるんですね。それがために、アメリカは世界から信頼と尊敬を失った、そういう国家になり、国民になってしまっておると言っていい。そういう状況ですね。**

**それに代わって日本人が、これから世界から信頼され、尊敬される国民にならなければならない。そして、国家としてもですね、また企業のあり方としても、世界が目標とする、そういうこの国家、企業のあり方というものをわれわれは求めていかなければならない。自分自身においても、全世界の人類から、全世界の民族から尊敬される、信頼される、目標とされる。そういうこの生き方を日本人は世界に見せなければならない。世界から憧れられるような、そういう人間性をわれわれは追求していかなければならない。そういうふうなですね、大きな目標を立てて、われわれはこれからの時代を生きる必要がある。そのことが単にそういう世界に目標を与えるっちゅうことだけじゃなくって、その意識が、皆さん方においては、自分の仕事の質を向上させていく。また、より多くの人から信頼、信用を獲得していけるようなですね、そういうこの人間性に成長していく。また、能力においても、俺の持ってる能力が世界のトップにあるんだというね、そういうこの自信を持ってお客さんに接するということは、お客さんのほうでもですね、それを自分たちは世界トップクラスの能力と技術を持った人たちに、今、家をつくってもらってるんだというね、そういうこの誇りを持たせる、お客さんに持たせることができる。**

**そういうふうなですね、この仕事の仕方というものをわれわれは、これから追求していかなければならないと思います。とにかく時流ということを考えた場合にね、基本的にこの４つのことが、まずは意識されていなければならないと思います。これからわれわれは、アメリカに代わって世界の頂点に立つ。世界の指導者になる。世界に目標を与えていく。自分が世界の目標になる。それだけの人間性と能力を自分はこれからつくっていかなければならないんだ。それは単に人類のため、世界のためじゃない。俺のためだ。自分のためだ。自分が幸せになり、自分が価値ある、命を輝かせて生きるね、生き方ができるために、それは必然的に今、要求されることなんだ。そういう結び付きでですね、ぜひ理解をしておいてもらいたいと思います。**

**そういう流れからですね、この今、新しい価値観というものが世界には出てきておって、すでに世界はこの新しい価値観に基づいて、新しい時代へと動き始めておる。もうそういう状況なんですね。だけども、この平凡な目で見るとですね、今はこれまで人類がつくってきたあらゆる価値観が音を立てて崩れ去っていくというね、そういう崩壊現象のほうが大きいもんですから、なんとなくこの何を信頼していいかわからない。そういう意味では、先が見えないようなですね、不安にこの陥ってしまっておるという、そういう人が多い。それと同時に、未来への希望をなくしてですね、今さえよければいいというですね、そういうこの意識になってしまっておったり、あるいは、もうこの程度で満足して、あまりもう高いところを望んだらいかんというふうなね、足るを知れとかですね、あるいは、この現在の状態が成熟時代であって、もうこれ以上、素晴らしい建築も、もうこれ以上、素晴らしい生活も、もうこれ以上、素晴らしい考え方も価値観も何も出てこない。もうこれがいっぱい、いっぱいで、もうこの程度で満足して、この程度で生活していけるような、そういう意識に自分の意識を慣らしていかなければならないというね、そういうこの理想のない、夢のない、この諦めに似たですね、そういう状況に陥ってる人もいる。**

**だけども、この歴史というものは、常により素晴らしい未来を求めて動いておるんだということをですね、忘れてはなりません。宇宙は常に万物を進化させる。まだまだ未来がある。まだまだ上がある。そういうこの時の流れのね、必然性というものをわれわれは見失ってはなりません。だけども、平凡な目で見れば、今は西洋の時代から東洋の時代へ、あるいは、この理性の時代から、理性の時代である近代から、次の新しい時代へという、そういうふうなこの過渡期にある。であるが故に、今、世界に現実に起こっている現象は、西洋的価値観の崩壊、西洋的世界観の崩壊、あるいは近代的価値観の崩壊、近代的世界観の崩壊という、そういう現象であって、これまでわれわれがつくってきた権威が、あるいは価値が、あるいは体制なり、システムが、がらがらと音を立てて崩れ去っていく。何も役に立たなくなってくる。すべてが信頼できないというね、そういう状況に陥っておるということは、それは現実の事実であります。**

**もう今や、われわれは誰といって信頼できる政治家がいない。また経済人も、みんなそれぞれにこの自己中心的な利益を追求しておってですね、誰もこの世界に対して貢献するような、そういう大きな理想を持って動いておるわけではない。学校の先生も信頼できない。お医者さんも信頼できない。警察官も裁判官も信頼できない。もう言ってみれば、幼児虐待という、この状況を見るならばですね、親すら子どもは信頼できない。また、お父さん、お母さんからしても、いつ子どもに殺されるかしらん。そういう状況でね、この家庭内暴力だとかね、いつ金属バットで寝とる間に頭かち割られるかしらん。そんな不安があったりね。あるいは、高齢者虐待といってですね、今は幼児虐待よりも、高齢者虐待のほうが多いんですよ、件数はね。だけども、高齢者虐待というのは、あまり新聞沙汰にならないし、あまり事件として報道されない。だけど、多くのお年寄りがですね、家の中に閉じ込められて、ひどい場合には屋敷牢に入れられてね、外へ出てしまうと交通事故に遭ったりしたり、いろんな犯罪というか、万引きしてしまったりね、いろんなことで問題を起こしたりするもんですから、痴呆になってしまっててね。そういうことをさせないように、家に閉じ込めてしまう。あるいは、ひもを付けて縛っとくとかね、ご飯を食べさせないとかね、いろんな虐待がですね、行われておって、これはもう家庭だけじゃない。老人ホームでもね、そういう虐待がもう常習化しておるわけですね。もうひどい場合には、本当にその痴呆化した老人をね、ホームの職員が足で蹴飛ばしたりね、本当に命令に従わないと、つねったりして、体中、あざだらけというような感じになっとったりね。いろんなそういう状況でね、お年寄りの不幸がですね、全世界において、いろんな問題となって、今、出てきておるわけであります。幼児虐待の比ではない。**

**そういうこの何一つ信じられないというね、状況で、缶詰を開けたらトカゲが出てくるとかね、牛乳を買って日にちを書いてても、そんなものは信頼できるかっちゅうような時代ですしね。そんな日にちなんていくらでも変えられるやないかと。何月何日、つくりましたと、そんなことどうしてわかるんやということになってしまったりね。実際問題、それがどんどん明るみに出てきてね、卵を買ったら、半年前に冷凍しておいた卵やったっちゅうようなことになってきたりね。日本の牛肉やと思ったら、輸入品だったりね。もうとにかく全部が本当なのとこう、常に問い掛けてみなきゃいかんようなですね、そういう状況に今、あるわけで、誰の言葉も、誰の文字も、何も信頼できない。それが言ってみればね、世界の現実であります。あらゆる価値が崩壊しておる。いや、信用が崩壊しておる時代なんですね。何一つ信じられない。だから不安でですね、お先真っ暗で、どうしていいかわからない、希望が持てない。だけども、この大きな流れ、時流というものをね、ちゃんとこう、頭に入れて、歴史を見るならばですね、変化、あるいは崩壊というものは、時間の矢に従って崩壊しますのでね、崩壊というものにも方向性があるんですね。だから、必ずこの崩壊のただ中にはね、未来への予兆というものが常に含まれておるのであります。ですから、この崩壊していくですね、その現実に悲観的になるのではなくて、われわれ本当に未来への希望を持って生きようと思ったならば、その崩壊のただ中に立って、われわれは未来を予兆としてつかむというね、その努力をする必要があります。それが歴史というものをちゃんとわきまえたですね、人間の現実の生き方だ。**

**じゃあ、この今、どういう価値観の転換がですね、世界で進んでおるのか。確実にこれが未来だと言える価値観がすでに５つあるわけですね。そして、いち早くこの新しい価値観にのっとって生き始めた人間だけが、この今の時代においてね、成功と幸せと健康を勝ち取ることができる。そういうこのふうに言うことができる状況なんですね。いち早くこの新しい価値観にのっとって仕事をしてる人間が、今の時代においてすでに成功を収めておるし、また新しい時代においてもですね、他者に先駆して、他人に先立って、自分がまずこの幸せと成功を勝ち取ることができる。それがですね、新しい価値観というものを持って、そういうものを自分のものにした人間のすごさというふうにね、言うことができるものです。**

**すなわち、これから申し上げるこの５つの価値観をものにしなければ、必ず不幸になります。必ず失敗をします。必ず病気になります。自分では病気やと思ってなくってもね、もうすでにみんな、ほとんど病気なんですから。精神構造においても。本当の健康な精神、心をですね、みんな見失ってしまっているという状況なんだ。それを本当の健康な状態、すなわちこの大宇宙の摂理にのっとった生き方というものにですね、本当にわれわれがちゃんと乗せていこうと思ったならば、明らかに自分の意識を転換しなければならない。改めていかなければならない。新しい価値観にのっとって、すなわち、宇宙が要求する、歴史が要請する、人智を超えたところからやってくる要請に自分自身を合わせていく。それ以外にですね、われわれが本当の幸せと成功と健康を獲得する道はありません。多くの人間が、そういうこの宇宙の要請、時代の要請というものをですね、無視して、言ってみれば、小ざかしいね、この人智の計らいでいろんなことをやってしまってる。それが故に、宇宙の要請や時代の要請というものにですね、この合わなくなってしまってね、自ら不幸をつくり、自らこの人生を台無しにし、自らがこの自分自身の病をつくってしまっているというふうなね、そういう状況に陥ってしまっている人が多いです。今の時代の根本のね、現象というのは、この理性が人間を支配するというね、そういうところからあらゆる病気が生じ、またあらゆる失敗が生じ、あらゆる不幸が始まってるんですね。**

**ここ何百年間か、人類は理性の命令に従って生きてきた。自分が理性で考えて正しいと思うことをやってきた。だから、人間は全部、理性の奴隷だ。それは私も含めて、みんな理性の奴隷なんだ。それがためにですね、言ってみれば、自分と同じ考え方の人間しか愛せない。相手が自分と同じような感じ方をしてくれなかったら、一緒に生活はできない。価値観が違ったら仕事ができない。そういうことになってしまってる。自分と同じ考え方の人間しか愛せない。それは自分しか愛せない人間だ。自分しか愛せないような愛は偽物の愛だ。だけど、みんなその偽物の愛に今は支配されている。偽物の愛を愛だと思って生きてしまってる。完全に人間はゆがんでしまった。だから不幸にならざるを得ない。だから離婚をするんだ。だから幼児虐待になって子どもを殺すんだ。自分と同じ考え方の人間しか愛せないから、違うやつを抹殺するんだ。それが戦争だ。親が自分の言うことを聞いてくれへんなら、むかついて金属バットで殴り殺す。みんな同じことなんだ。同じ現象なんだ。同じ原因によって生じてくる事態なんだ。違いが許せないんだ。これが人間の作為に基づいて、小ざかしい人間の作為に基づいて生きた人間の不幸である。**

**だけど、われわれの命はですね、われわれ寝ておっても生きておるということは、生きてるのは自分が生きてるんじゃない。確実に寝ておっても生きておるということは、その命は自分以外の力によって生かされておって、支えられておるんだ。じゃあ、誰が支えてくれてるの。それは、大宇宙の摂理の力だ。宇宙の力によって、われわれは支えられておる。寝るということは、宇宙からエネルギーをもらうということなんですよね。寝てる間に宇宙からエネルギーをもらうから、命はエネルギーを充填してね、またこの元気になって復活をする。そして、朝起きて活動をし始めたら、そのもらったエネルギーを使い始める。いわゆるその吸収するよりも使うほうが多くなってしまうから、だんだん、だんだん、疲れてきて、眠たくなってくる。もう耐えられんということになって、バタンキューで寝てしまうと。寝てしまうと、人智の小ざかしい働きが消えるからね、宇宙からエネルギーが充填されて、そして、この満タンになってね、朝、目が覚めて、また活動し始める。確実にわれわれの命は、宇宙の力によって支えられてる。宇宙の力によって生かされて生きておるんだ。この宇宙の摂理に沿った生き方をしない限り、われわれは本当の人間としての幸せと、成功と健康は絶対に獲得できない。多くの病は心因性だ。また多くの失敗は、自ら失敗をつくってしまってるんですね。小ざかしいこの作為に陥って、皆失敗するわけであります。**

**そういうことを考えるならばですね、われわれは人智を超えたところで働いておるこの時の流れと、そして、この新しい時代の価値観というものをですね、明確に意識することによって、それにのっとって自分の人生を考える。そのことを自分の幸せのために、自分の健康のために、自分の成功のために、必然的に考えなければならなくなってくるんですね。じゃあ、そのわれわれが、成功と幸せと健康を勝ち取る、獲得することができる根本の原理はなんなのか。これから時代において人間が幸せになるためには、どういう価値観にのっとって生きて仕事をすればよいのか。それが次のですね、新しい価値観ということであります。**

**全部で５つあると。これはあまり詳しく言ってると、これだけでも何十時間とかかるね、一つ一つが重要なこれは問題ですので、簡単に済まさないと、今日の話が終わりませんのでね、簡単に申しますけど、とにかくこれまではね、いろんなものを細かく分けていく、細分化することによって、これまでいろんなものが発展してきたんですね。ところが、もうこれ以上、細かく分けられんちゅうところまで世界はやってきました。そこで、今、世界に起こっておるすべての現象の根本にあるこの方向性というのは、分けてきたものを元の分ける以前のね、有機的に絡み合った状態に戻していこうというね、そういう方向性に転換した。すなわち、細かく分けるっちゅうところから、分けたものを今度はもう一度、結び付きをつくっていくというね、そういうこの段階に今、方向転換してるんですね。それを言葉にすれば、細分化から統合化へというね、そういうこの価値観の変化として表現することができます。われわれは、これから統合能力を磨いていかなければならない。細かく分けて区別して、それを対立させるというような、そういう意識からですね、あらゆるものを結び付けていく。結び付きをつくっていく。この力が自分を幸せにする。この力が自分に成功をもたらす。この力が自分を幸せにする。成長、幸せにする、健康にする。そういう時代に入ったんですね。**

**これがこれからの時代を生きる善良さ。人間としてこの善良だといわれるね、そういうこのことの基本原理です。対立しておるものを結び付けていく。協力関係に持っていく。だから職業においても、今はコーディネーターという仕事がね、非常に大きなこの収益源となって、この社会においては働いております。いろんなものを結び付けていく。つながりをつくってあげる。その意味では、異なるものを結び付ける力というね、その力がこれからの時代を生きる人間性において、最も大事なものとして要求されてるっちゅうことですね。結び付けていく力、これは会社の経営においては統合能力というふうにね、統合能力というのは、会社の中では、これは統率力というね、そういうふうな形で表現されるもんですけれども、この団結力をつくっていく。これは統合というね、力の表現であります。だけど、現実はまだまだ政治においても、与党と野党がけんかをして、互いに激しくののしり合うことによって、政治は動くというシステムですしね。裁判においても、検事と弁護士が激しく言い争う。それをこの原理にして、調停が進んでいくというね、そういうこの形で裁判は進められますし、あるいは経済界においてもですね、競争、対立、それがエネルギーになってですね、会社は発展してきた。それがこれまでのですね、あらゆるものの進歩、発展、成長の基本原理でした。**

**だけど、もはやそういう対立が醜いというね、そういう時代に変わってきております。もうこれ以上、対立しておったんではね、世界そのものの秩序を崩壊する。そういうこの状況なんですよね。だから、もう細かく分けて違いを理由に、違いを目立たせながらですね、対立しているという、そういう状況をこれ以上つくり出しては、もうあらゆるものがですね、うまくいかなくなってしまう。であるが故に、これからは統合能力を磨いていくというですね、そういうこの目的を持った人間性の成長、能力の成長というものをですね、考えなければならない。結び付ける力というものの、この能力を磨いていく。あるいは、あらゆるものを結び付けることにですね、生きがいを感じるような人間性をつくっていく。そういうふうな、この努力をですね、われわれは自覚的にし始めなければならない。だけど、今、日本で行われてる統合というのは、ほとんどが同業者間の統合というね、マイナスの統合なんですね。同業者間の統合というのは、これは競争をなくして、そして、規模を拡大していく、資本を拡大していく、規模を拡大していくことによって、少々のことがあってもつぶれない、大丈夫というね、そういう安心をつくり出そうとするね、そういうこの統合の方向性であります。**

**だけど、安心というものは労働意欲を減退させてですね、そして、そのかえってだらけさせてしまうと。そして、同業者間の統合というのは、往々にして、内部の混乱というかですね、このシステム的な、違和感をつくり出してしまってね、銀行でも、統合されてしまうと、前の銀行の時代の体質が残っておってですね、社員同士で対立してしまうとかですね、あるいは違うコンピューターを結び付けるが故に、機能がうまく融合して合わないで、いろんなトラブルが発生する。そういうことが統合が行われた当初はいっぱい出てきましたね。ATMが急に働かなくなったりね、そういういろんな問題がありました。そういう同業者間の統合というのは、これはマイナスの統合というんですね。本当の価値ある統合というのは、その異なるものが結び合うことによって、そこから出てくる相乗効果としての発展、成長、利益を狙うというね、これがこの真の価値ある統合、有機的統合といわれる統合の手法であります。異なるものを結び付ける。違うものを結び付けることによって、そこから出てくるシナジー効果、相乗効果としてのですね、この未来、発展というものをつくり出そうとする。そういうこの意識でですね、われわれはいろんなことをし、また人間関係においても、そういう意識で関わらなければならない。**

**とにかく今、いろんなものがばらばらになってる。それをどう結び付けるかということが一番大事な能力なんですね。統合能力、あらゆるものにこの秩序と成長をもたらす統合能力、これをどういうふうにですね、磨いて、育てていくかということをですね、真剣に考えなければなりません。企業の発展を考える場合でもですね、この何かしら単体で、自分の会社からのみ、利益を上げようとするね、そういうこの姿勢というのは、常に成長の限界というものが出てきてしまってですね、発展は止まり易いです。というのは、どんなにいいことを考えてもですね、同業者がたくさんあれば、すぐまねをする企業が出てくるわけですね、同業者の中から。そうすると、そのことによって、同一水準、同一レベルで競争が発生してですね、結果として価格競争に陥って、仕事はあっても利益が上がらんという、そういう状態に引きずり込まれてしまうというのがですね、この自分の会社からのみ、利益を上げようとする、そういう会社の宿命であります。その意味においてですね、無限の発展というものをこれからつくり出す原理は、異なるもの、自分の会社と隣接するですね、いろんな職業なり、違った職種とですね、提携、あるいは協力し合いながらですね、その相乗効果としての仕事の仕方、あるいは技術や商品の開発、あるいは利益が出てくる道というものを探り求めていく。そういうこの企業間の統合というのは、個の統合ですから、まねができません。その意味で、独特の発展の方向性、道筋をつくっていくことができるんですね。**

**だけど、この手法はまだまったく磨かれておりませんのでね、ほとんどの人は危険を感じて、なかなか手を付けません。だけど、それを最初にやったのは、あのソフトバンクの孫正義さんでした。だからいっとき、ソフトバンクは１株20万円になるところまでね、この急成長というか、期待が膨らんでですよ、１株20万円、19万円なんぼまでいったんですけども、そこで成長が途切れてね、そして、いっときまた1,000円割るかっちゅうようなところまで下がってきまして、今だいたい、4,000～5,000円レベルでもたもたしてますけども、なかなか勇気を持って孫正義さんの提案に沿って、異なるものを結び付けるという提案に乗っていこうとするね、そういう企業が非常に少ない。もうそれよりも、安定、成長、成長しないけど、安定で、同業者間で力を合わせていったほうが、あんまり変化がなくってね、このあんまり動揺がなくって、安心だろうというね、そういうこの安心を優先させて、成長を犠牲にしてしまっているような、そういう今、この企業経営の状態なんですよね。**

**だけども、本来、理屈からいってもね、異なるものと出合って、異なるものを結び付けていくという、そういう仕方をすることなしには成長はしません。人間でも、自分にないものを誰かから学んで、自分が成長していく。異なるものを持ってる人間と出会わないと成長しない。同じものを持ってる人間がどんだけ集まってもね、規模は拡大しますけど、質の向上は発生しないんですね。質の向上、成長というものは、異なるものとの出合い。異質なものと出合うことによって、この真の成長、発展、質における成長、発展というのが生じてくるわけであります。もはや今は規模の拡大の時代ではない。質の向上ということがですね、あらゆる企業にとって、成長の方向性としてですね、この自覚されていなければならない。量的な拡大、規模の拡大は、必ずその限界をもってですね、倒産の危機をもたらしてしまう。**

**ですから、今、規模の拡大という、そういうやり方でね、経営をしてる会社は全部、大赤字ですよね。質の向上で、そこに成長の方向性を絞った会社だけがですね、今、利益を上げ、急成長し、元気であります。もちろん、アサヒグローバルもそういう質の成長というところにね、会社の発展の眼目を置いているが故に元気なんですよね。そういう質の成長というものを限りなく追求していこうと思ったならばですね、異なる質のものと関わりながら、何かをやっていくというね、そういうことが大事であります。これは経営の方針からするならばですね、自分の会社で新しいことをしようと思ったら、その全資本投下が自分持ちになってしまって、資本リスクが大きい。だけども、他社と協力し合いながら、新しいことをしていくならばね、投下資本が半分で済むと。だからリスクも半分になってしまう。そういうやり方をすると、非常に未来に挑戦しやすいというね、そういうふうなこの体制がつくられるんですね。**

**その意味においてもね、この統合というこの価値観というのは、あらゆる意味でこれからの時代の中核になる考え方だというふうにですね、言わなければなりません。ですから、新聞を見れば、毎日毎日、もう統合、統合っちゅうことは、もう嫌というほど毎日毎日、出てくる言葉ですよね。だけど、10年前にはね、どの新聞を見ても統合なんていう言葉は出てきませんでした。まったく新しい価値観です、これは。その意味でこの統合化というですね、この新しい価値観というものを、ぜひこのどういうふうにして自分の生活、自分の生き方、自分の人間性、自分の能力として身に付けていくかということをですね、ぜひいろいろ考えてみてもらいたい。みんなで相談してですね、統合っちゅうことはいったい、その自分たちの仕事においてはどういうことなんだろうか。自分の人間としての生き方においてはどういうことなんだろうか。そのことをですね、機会があったら、みんなで話し合ってもらいたい。いろんな新しい方向性が見えてくるはずであります。**

**２つ目のこの新しい価値観というのは、支配からパートナーシップへ。これは、これまでずっとですね、人間関係というか、社会構造というのは縦型の社会構造でね、人間が人間を支配するという、そういうこのシステムを持った、ピラミッド形式の組織、社会というものがつくられてきたんですけどね。だけど、今や人間が人間を支配することは悪だというね、そういうこの倫理観が世界に広がりつつあると。ですから、人間が人間を支配するという構造を持ったあらゆる体制が、すべて崩壊していくという流れなんですね。これはどこから始まったのかというと、1899年、フィリピン独立戦争というのがあってですね、そのアメリカ帝国主義によって植民地化されて、ひどい搾取に悩んでおったフィリピンが、もう耐えられないっちゅうことでね、反旗を翻して暴動を起こす。フィリピンが植民地から立ち上がって、独立国になろうとする動きを始めた。ここからずっとこの20世紀の間続いた、植民地独立戦争というものがですね、展開されていくことになるわけですね。植民地独立戦争というのは、帝国主義国家によって植民地化、支配される。その構造をこのなくしていこうというね、そういうこの動きでした。**

**この帝国主義による植民地支配、これもやっぱり、人間が人間を支配するという構造だったんですよね。その影響で、それがだんだんといろんなことにこの関わっていってですね、男性が女性を支配するという構造も完全に今は払拭されてしまってですね、男女平等、フェミニズムというね、そういうこの運動が全世界的に展開されました。まだまだ男尊女卑というね、そういう考え方は色濃く残っておるところが多いですけども、だけども、意識としては、完全にこの男性、女性、対等というね、そういう意識でいろんなことが進んでいっておるという流れであります。もう今や、男女平等どころの話じゃなくってですね、もう女尊男卑かといわれるような、そういうふうな現象が家庭の中でもね、またいろんな仕事の面でもですね、出てきておるわけですね。残念ながら、男の子は元気がない。女の子はめちゃめちゃぎゃあぎゃあ、うるさいといってですね、本当にもう女の子がいろんなものをリードしていってるような、そういう状況が多々見られるわけですよね。男は疲れ果ててしまっておるけど、女の子の命からは、どんどんとこのエネルギーがね、湧き出てきてるという、そういう状況で、そういう意味ではもう女にはかなわんというような感じのね、社会にこうなりつつある。**

**それもまたちょっと行き過ぎなんですけどもですね、だけど、とにかくは一応、その人間が人間を支配するという、そういう構造を持った社会は完全に終わってしまってですね、今やあらゆるものが共生、パートナーシップ、そういうふうなですね、意識で関わっていかなきゃならんという、そういうこの価値観、道徳、倫理というものが出てきておるわけですね。だけど、パートナーシップとはいったいなんなのかっちゅうことが、まだ全然、一般には理解されていないんですよね。ただ一緒に仕事をすればパートナーシップが、ただ一緒に生きておったらパートナーシップがというわけではないっちゅうことですね。パートナーシップとはいったいなんなのか。これは人間というものがですね、この長所、短所、半分ずつある。だから、パートナーシップというのは、自分の長所で相手の短所を補ってあげて、自分の短所を相手の長所によって助けてもらうという、この相互補完的な構造がパートナーシップという、そういうこの具体的な内容なんですよね。パートナーとかですね、ベターハーフというのは、自分が最も生かされる相手なんだ。自分が一番輝ける相手がパートナーなんですよ。人生においては。相手にとっては、パートナーシップというのは、相手を最大限に輝かせてあげる自分というのが、相手にとってのパートナーなんですね。**

**だから、パートナーシップというのは、違う言葉で言えば、活人力なんだ、活人力。人を生かす、生活の活という字を書いてね、生活の活と人という字を書いて、活人力、力、活人力。活人力というのは、人を、相手を輝かせる力が、相手を輝かせる能力が活人力。パートナーシップというのは、お互いに相手を最高に輝かせることができる、相手、パートナー。それがパートナーシップなの。この力をですね、われわれは会社においても、家庭においても、追求していかなければならない時代に入りました。人の短所を責めてはいけない。人の短所というのは、自分が補ってあげなければならないものであって、責めてるどころの話じゃない。人の短所を見いだしたら、それを自分が補ってあげようとすることが、不完全なる人間における善良さである。人の短所を責めて注意したりすることは、残念ながら、それは相手に完全性を要求する、相手を病気にしてしまう、相手を人間として認めない。そういうこの行為になるわけですね。すなわち、２人の人間がお互いに助け合うことによって、より完全という、そういう状態に近づいていく。それがパートナーシップですね。１人では絶対に完全にはなれないと。だからこそ、多くの人の助けを得て、自分が１個の完全な仕事ができていくことになっていく。そういうシステムをね、会社としてどうつくるかということをですね、チームで考えなければならない。誰が誰を補うのか。俺は誰を助ければよいのか。そういうことをですね、パートナーシップというのは、常に考え、関わるということですよね。**

**そして、素晴らしいパートナーシップができてくることによってですね、そこからこの予想を超えるようなね、相乗効果がこう、生まれてくるわけですね。会社の中で仕事をする場合に誰と誰を一緒に仕事をさせたならば、最高の成果が出るか。誰と誰を一緒に仕事をさせたならば、最も気分よく働けるか。こういう人的環境の整備ということがですね、これからの企業において最も大事な課題になります。これまでは環境整備、労働環境の整備というと、人間の外側のね、環境をより成長させていくという、そういうことでしたけども、これからは量的な外側の世界じゃなくて、内面的なね、質のことを問題にしなければならない。質の向上を問題にしなければならない。それがために、この人的環境の整備。人的環境というのは、意識、精神、人間性、そういうものの環境整備を整えていくというのが、これからの職場における労働環境の整備の眼目になることであります。それはいったいなんなのかといったら、誰と誰を一緒に仕事をさせたならば、最も気分よく働けるだろうかというパートナーシップを追求していかなきゃならないし、誰と誰を一緒に仕事をさせた場合に、最も最高の利益が上がり、最高の能率が上がり、最高の成果が出るか。そのことを考えながら、人間と人間の組み合わせというものを考えていく。これがパートナーシップということなんですね。**

**そういう意識で、この組織、人間と人間との関わりである会社組織というものをつくっていく時代にこれから入ります。ですから、これからの会社は、人事課というのがものすごく大きなウエートを持ってくると言ってもですね、過言ではありません。そこにおいて一番大事なのは人間学なんですよね。人間というものについての深い理解を持った組織づくりですね。それをこなしていかなければならない。これまでの経済は物質経済学で、人間というものに個性を認めないでね、ただ何人でやるとかね、何人社員がいるとかですね、そういうこの持つ個性の量でいろんなことを見ておりましたし、仕事をさせる場合でも何人でさせるかというようなね、そういうことでしたけども、同じ仕事でもですね、たくさんの人間でやってうまくいくこともあるし、うまくいかんこともある。少人数でやっても、それがたさくさんの人数でやったよりもですね、より大きな成果が出ることもある。そういう意味においてですね、質の時代、誰と誰を一緒に仕事をさせたならば、最も気分よく働けて、最もより大きな成果が出るか。そういうことを追求しながらですね、この組織というものをつくっていく時代にこれからは入っていきます。**

**これを、感性論哲学では、人間経済学というんですね。まだ人間経済学というのは、経済学の分野には名前もありません。だけども、これからはこのキャピタリズム、資本主義経済じゃなくってですね、人格主義経済という、経済活動をすることによって人間が成長していく。そういうこの経済をつくっていかなければならない。経済の犠牲になって、人間は病気になって死んでしまうというのがキャピタリズムです。人間は経済のためにある。これがキャピタリズム。だけども、これからは、経済は人間のためにあるんだ。そういう経済をつくっていかなければならない。そのためには、この人間経済学というものをですね、求めていく必要がある。キャピタリズムというのは、もののエコノミーを追求するんですけども、人間経済学というのは人間のエコノミーを追求するんだ。人間の有効利用を追求するんだ。その人を最も輝かせる、そういうこの経済を追求していく。これが人間経済学である。その人の命が最も輝ける、そういうこの状態を経済活動の中でつくっていく。それが人間経済学だ。人間のエコノミック、有効利用ですね。これまではものの有効利用だった。だから、人間はものと考えられておった。だから、人間の労働が数量化されてですね、出てくるというね、そういう時代だった。だけど、これからは、この人間の経済、人間を目的にした、人間を中心にした経済というのをつくっていく。そういう流れなんですよね。**

**まだそれはできておりませんけどね、だけど、これからの企業は完全にそれを目指さないと、社員を幸せにすることはできません。社長さんも幸せになりません。社長さんから平社員に至るまで、全社を挙げてですね、人間のための経済、人間のエコノミーというものを追求していかなければならない。だから、会社にはリーダーシップが必要ですけども、だけども、リーダーシップには必ずフォロワーシップというね、ことが一体となって付いていなければ、本当の活力のある会社は生まれてきません。これまではリーダーシップだけがね、要求されて、フォロワーシップの教育というのは、ほとんどできてないんですね。だから、なかなか社員が社長さんとこの歩みを一つにして成長するということが難しかったです。だけども、リーダーシップとフォロワーシップが一体となって、初めて組織なんですよね。やはり社長さんと社員との間にも、このパートナーシップというね、お互いに生かし合う形というものがなければなりません。その意味で、この社員の方々は、フォロワーシップとはなんなのか。そのことをね、追求していかなければならない。**

**そして、フォロワーシップを身に付けて、そして、やがてリーダーになっていくというね、それがですね、完全な組織というものの姿であります。リーダーシップだけあって、フォロワーシップのない経営者は社員を苦しめます。またフォロワーシップだけあっても、リーダーシップのない人は組織をまとめてはいけません。とにかくあらゆる意味でね、パートナーシップということが、これからは要求されてくる。このパートナーシップのことを感性論哲学では、ピンク・レディー・シンドロームというんですね。ピンク・レディーというのは、ミーちゃんとケイちゃんが一緒に仕事をするんですけどもね、だけど、ミーちゃんとケイちゃんが一緒に仕事をすると、ミー、プラス、ケイじゃなくって、ピンク・レディーになったりしてね、UFOって言ってですね、100万枚売ってしまうというね、とんでもない相乗効果が生まれてくるわけです。これはいわゆる、このパートナーシップというものの最も最高の姿なんですよ。**

**そういうこの予想をはるかに超える成果が生まれてくるという関係性ですね。そういうものを企業で追求していくという努力をするような、そういうこの経済学がね、これからは求められてくるわけであります。少数精鋭主義、どんどん、どんどん、子どもの数が減っていくという状況の中でね、企業はどんどん増え続けるんですよね。当然のことながら、少数でこの大きな成果を上げる企業体質をつくっていかないと、企業は生き残れません。そういう意味で、このパートナーシップというのは非常にこれからの企業においてはね、大事なことであります。社員としては、自分を最も輝かせてくれる相手を求めていかなければならない。人生においては、出会いが大事だとよくいわれますけどね、出会いが大事だというのは、自分を最高に輝かせてくれる相手に出会うということですね。そして、お互いがお互いを最高に輝かせ合える関係性、これがベターハーフなんですよ。だから、ベターハーフというのは、べつに結婚する相手ということだけではなくってね、あらゆる人間関係においてベターハーフ。お互いに長所、短所、半分ずつ持っておるんだから、それが本当に見事にがちっと組み合うというね、相互補完的な関係で関わればね、それがいわゆるベターハーフという、そういうこの運命の出会いになるわけですね。**

**とにかく組織の中ではね、あんまり人を責めておったら能率が下がりますからね。相手の駄目なところは、もう黙って積極的に補っておいてあげると。自分の駄目なところは早く声を出して、早く声を出して、助けてくれって言って助けてもらってですね、その自分の駄目なところで問題が出てこないための対応をね、自分自身でやっていくと。そういうふうなですね、人間というものを深く理解した人間との付き合い方というものを覚えていかないとですね、組織の能率は下がります。自分に与えられたですね、この権限の範囲を超えないと、ここからはおまえのやることやろうと、そういうふうなことを言うとると、ぎくしゃくしますからね。とにかくは、もっともっと有機的に結び合ってね、相手の駄目なところは、自分が補うために存在してるんだ。自分の駄目なところは、相手に補ってもらうために相手はいてくれるんだ。そういうこの活人力というものを持ったね、関わり方というものを自分自身が意識的に追求していく。そうすれば、自分はもっと幸せになりますよ。それは自分が幸せになる原理です。相手のためにどうのこうのしてあげようというんじゃなくって、相手のためにこの自分が役立って、また相手から助けてもらえるという構造は最高の人生ですよ、これは。お互いにお互いを最高に輝かせ合うことができる関係性、これが最高の社会のあり方ですからね。**

**パートナーシップというものをそういうふうに考えて実践している人というのは、ほとんどまだいないんですよ。いわゆる社会には、まだ人間経済学というのは存在しませんから、世界にはまだね。これからつくっていかなければならないものです、絶対に。誰がそれを先にやるかですね。アサヒグローバルで久保川社長さんが社長を退かれて、これに懸けてもらったら、すごいなと思うんですけどね。人間経済学、経済学に新しい風を吹き込むというね、これはね、学者ではできない。現場を知らんとね、できないんですよ、この人間経済学は。だから机上の空論で、大学で研究しておるような学者には、この発想は出てきませんよ。さまざまな人事における苦労をね、し続けてきた体験を持った人しかこの人間経済学という新しい経済学はつくれません。その意味で、多分、経営者か、あるいは経営に関わるね、そういうこのところで仕事をしている方々の中からね、こういうこの学問をつくらなきゃならんという、そういうこの意欲を持って、経済学を発展させるためにね、民間からそういう能力を持った人が出てくると思いますね。**

**経済学という、経済の中で働いてる限りはね、この経済学の方向性というのをちゃんと知っておいてもらいたい。これまでは、もののエコノミーを追求してきたんだと。これからは人間のエコノミーを追求せないかん。人間のエコノミーとは、エコノミックとは有効利用なんだ。それを人間の人生に置き換えれば、自分自身のエコノミー、自分自身の命を最も輝かせる生き方。それが自分自身において、自分自身のエコノミックな人生ですよね。経済学というものをね、大学で学ぶっちゅうことは、単に経済社会で働くために学ぶっちゅうんじゃなくって、いわゆるエコノミーという精神をね、学ばなければね、経済学を本当に身に付けたとは言えませんよ。だけども、大学はそれを教えてくれませんからね。経済学というものを哲学的に受け止めることによって、自分自身のエコノミックな人生ということを考えることができる。エコノミックな人生というのは、自分の人生の有効利用ですよ。自分の命の有効利用。ということは、自分の命を最も輝かせることができる生き方ということになるわけですね。ぜひそういうこともね、時々、仲間が集まって語り合うとかね、そういう雰囲気をね、会社内でね、持ってもらいたいと思うんですよ。**

**仕事の話も大事ですけど、お互いに人生を語る。お互いに素晴らしい職場にするために、お互いに語り合って、お互いに成長し合っていく。そうすれば、会社の中で仕事をしてるだけで終わらないで、その会社の中で自分が人生を生きる力においても、また成長していって、お互いに教え合うことによって、家庭生活も素晴らしくなっていく。いろいろお互いに教え合うことによって、恋愛の精神も高度になっていく。夫婦の関係もよくなっていく。あるいは、親子の接し方も、お互いにいろいろ語り合うことによって、教え合って伸びていく。そういうカンパニー、会社になればね、素晴らしいですよ。単に仕事の付き合いだけではない。60億を超える人口の中から、たまたまアサヒグローバルに入って、そして出会ったこの出会いというのは、まさに本当に言ってみれば、奇跡の出会いといってね、いいような運命の出会いなんですよ。であるが故に、仕事で関わるだけじゃなくって、あらゆることにおいてね、関わりをこのつくっていって、お互いにいろんな面で成長していける。そういうこの付き合いの仕方をですね、つくってもらいたい。**

**あと価値観、３つあるわけですけど、３番目は、競争から創造へということですね。このこれまでは競争しか発展の原理はないと。競争がなくなれば、あらゆるものは発展、成長しなくなるんだというふうにこう、いわれておりました。だけども、この現状の世界を見るならばね、競争という意識がいかに人間の心を蝕むか、いかに人間性を破壊するか。競争という意識がいかに人間を醜くするかということを、人類はもう嫌というほど知ってしまいました。もはや競争という原理によって、社会が発展し、人間は成長する時代は終わったと言わなければならない。そういうこの状況なんですね。これは、受験戦争、受験競争を見るまでもなくね、いかに競争という意識において、心が蝕まれていくかということが、このいろんな面で知られておる。だけども、企業は発展しなければならない。人間も成長しなければならない。じゃあ、競争というものを原理にしないで、どういう成長の仕方があるのか。だけど、実際問題、競争という現象そのものはね、なくなることはありません。これは同業者がたくさんあったならば、競争という関係性そのものは永遠に存在します。だけど、その競争という、このエネルギーをね、外に向かって発散してですよ、ライバル会社をぶっ倒せって、そういう仕方でですね、勝ち負けで生き残りを追求していくという時代はもう去ったんですよね。相手に勝って生き残る時代は去ったんだ。今、どうなってるかといったら、この競争という永遠になくなることのない、このエネルギーをね、内面化していって、そして、この競争というこの関係性を自己変身、自己成長、自己変革、自己完成への力にしていこう。自己変身、自己完成、自己創造の力にしていこう。そういうこの流れに入っているわけですね。**

**競争という関係性を外に向かって表現してですよ、ライバル会社と営業力で勝たないかんというね、そういう仕方の経営は量の時代の経営なんですね。だけども、今は質の時代の経営に転換しなきゃならんという、そういう流れですから、だから、競争というエネルギーを内面化していって、それを自己変身、自己創造、自己変革、自分の成長、会社の成長、会社の内的な発展の力に変えていくというね、もうそういう時代に今、入ったわけであります。すなわち、鼻先に競争意識をぶら下げながら経営をし、鼻先に競争意識をぶら下げながら仕事をしてる人間の人間性は醜いという、そういう時代であります。そうじゃなくって、競争というものを自分の成長のエネルギーに変えていく。会社においては業態の転換、内面的なリストラクチャリング、構造転換にその力を使っていく。そして、この会社が利益を上げる唯一の原理は、消費者の要望にどこまで的確に応え続けるかということである。会社が存続する原理は、歴史の要請にどこまで的確に応え続けるかということである。この２つしか、会社が利益を上げ、生き残る原理はない。であるが故に、競争というこのエネルギーを内面においてですね、この消化して使っていかなければ、その消費者に対して徹底的にこの要望に応え抜いていくという力も出てこないし、また、歴史の要請に応え続けてですね、会社を発展させていくというエネルギーも出てこない。**

**そして、この自己変身、自己創造、自己変革といい、また、消費者の要望に的確に応えていく、歴史の要請に的確に応えていくということはいったいなんなのかといったら、それは創造というね、力をつくっていくことなんだ。競争で会社は生き残り、発展するんじゃない。クリエートで会社は生き残り、発展する。そういう時代にこの今、変わってるわけですね。ますますこれからそういうことになっていく。すなわち人類は、これからの時代は、勝つことが最も素晴らしいというね。勝たないかん。負けとったらいかんという、そういうこの競争意識むき出しの時代からですね、ようやく人類は勝つことよりもっと素晴らしいことが人間にはあるんだ。勝つことが最高ではない。勝つことよりもっと人生には大事なことがあるんだ。そのことをわれわれは知る時代になってきたんですね。勝つことよりもっと素晴らしいことはなんなのか。それは、力を合わせて共に成長することだ。勝てば負ける者をつくってしまう。力を合わせれば共に成長できる。ここにクリエート、創造的な生き方のですね、究極の目標があります。競争して勝てば、負ける者をつくってしまう。そして、勝ち負けは、最終的には１人しか勝ち残らない。あとは全部、負けた者になってしまう。だけど、力を合わせれば、みんなが成長できる。力を合わせるということの素晴らしさに、この生きる。そういうこの時代にですね、これからの社会組織はなってきたと。力を合わせるということは、詮ずるところ、愛の精神なんですね。**

**４番目は、今度は理性から感性へ。理屈を優先させる時代から、心を優先させる時代へ。そういうですね、この変化が要求されてくる。心の豊かさ、頭がいいっちゅうことよりも、心の豊かさのほうが優先する。心の豊かさというのはなんなのかといったら、相手の心をですね、感じ取って、そして、その相手の悲しみを我悲しみとし、相手の苦しみを我苦しみとし、相手の喜びを我喜びとするというふうなね、そういうこの共感同苦の心、そういうものがですね、このなければ、絶対に仕事においては成功はない。お客さんの心の背後に、お客さんの言葉の背後にある心を感じておるというね。そういうこの精神が非常にこの大事である。また社員同士、接する場合でも、相手の心を感じ取って、心を満たし合うというね、そういうこの人間関係のつくり方ということをですね、優先させていかなければならない。もちろん、この理性も大事なんですけども、だけども、人間の本質は心だ。理屈じゃない。心を優先させて、理屈を後から使う。あるいは、理屈を言う力を手段能力として使ってですね、心を優先させていく。心を大事にする。そういうふうなですね、この力をつくっていかなければならないと。心の豊かさをつくっていく。人間性の豊かさをつくっていく。人格を成長させていく。そのために頭を使う。そのために、また理性をも成長させていかなければならないと。能力としての理性にですね、重点を置くか。あるいは、心、人間性、人格に重点を置くか。そこの違いがですね、非常にこれからは大事になってくると。**

**だけど、感性が大事で、理性はどうでもいいっちゅうんじゃないと。理性と感性の協力によって、人間性というのがこう成長していくのでですね。だけど、どちらに重点を置くか。感性を成長させる、感じ方を成長させる、感じる力を成長させる、人間性を成長させる、心を成長させるために理性を使うという仕方で理性を成長させることが大事なんだっちゅうことですね。相手の表情とかね、そういうものをこう感じ取りながら、ああ、ちょっと強く言い過ぎたかなと思ったら、また優しく言い直す。ああ、ちょっと言い足らんかなと思ったら、また理性でちょっと説明を付け加える。心を常に働かせながら、理性を手段能力に使ってですね、相手との人間関係が壊れないようにですね、対応していく。そういうこの心を大事にして、心のつながりを大事にして、心のつながりが壊れないように、それをどうしたらええか考えるために理性を使って、理性を成長させていく。そういうふうなですね、理性の使い方をしないと、ついつい、この相手のことを考えないで、理屈でものを言って、説得して、相手をへこませて、悦に入ってるというのはね、そういうこの自己中心的な人間になってしまうと、お客さんにも感じが悪い。また、仲間と一緒に仕事をする場合でも、付き合いづらい。そういう意味で、心を大事にする、人間性を大事にする、人格を成長させていくということは、非常に大事なこの感性の時代のですね、この目標になるわけであります。学校ではそれをやってくれませんからね。学校では頭を磨いてくれるだけですからね。感性を磨き、心を磨き、人格を成長させるのは、自分でやる以外にない。あるいは、会社に入ってから、社員教育としてなされる以外にはないと。**

**最後の５番目ですけども、画一性から個性へ。これからは個性の時代だと。個性の時代ということは、お互いに違ってていいと。違いを認め合い、許し合って生きていくというね、まずそういう力をつくっていかなければならない。自分と同じ考え方の人間しか付き合えないようでは、人間性は狭い。心は貧しいと。自分と違った考え方や、自分と違った感じ方や、自分と違った性格の人とちゃんと仲良く関わっていくことができる。お互いに違いを認め合って、許し合って、付き合っていける。そういうですね、ことが、個性の時代においては要求されるわけですね。とにかく新しい価値観というのはね、統合とパートナーシップと創造と感性と個性。この５つの原理をどういうふうに自分の仕事の中に取り入れるか。自分の生き方に取り入れていくか。これが新しい時代の人間に自分自身が成長していくという目標なんですね。統合能力を磨き、共生の力をつくっていきね、パートナーシップというのは、共生というふうに言い換えてもいいんですけども、統合と共生と創造と感性と個性、この５つがですね、これからの企業、生き残りのキーワードだというふうに言ってもいいし、また、新しい時代の人間、人類の人間性だというふうに言ってもいい。そのことをですね、基本的に頭に置いて、また次の創造力の話を聞いてもらいたいと思います。ちょうど話の切りがいいので、ここで10分間、休憩を入れて、また次の話をしたいと思います。どうもありがとうございました。**

**（休憩）**

**芳村：それでは、後半の話に入りたいと思います。とにかくそういうこの今のですね、時の流れというものを見るならば、いろんなところで、その原理的変革というものが求められておるというね、そういう状況であります。であるが故に、どんなことをする場合でも、今までの延長線上ではいけない、何かしら、この創意工夫、努力をしながらですね、この自分の仕事の仕方においても、生き方においても、いろんな面でクリエーティブなね、創造的なこの意識でいろんなことに関わっていかなければならないという、そういう状況なんですね。これは、価値観の転換が求められておる時代の非常に大事なやはり認識だと思います。そこで具体的に今度はですね、創造力という能力を自分のものにしていこうと思ったならば、どういう努力をですね、したらよいのか。そのことをお話をしていきたいと思います。**

**まずは、一般的にわれわれが創造力というふうに言っておるものにもですね、実は３つの種類、あるいは、３つの次元というものがあるんだということをまずは知ってもらいたいと。第３番目の創造力の種類というところなんですけども、創造力には理性の創造力と生命の創造力と宇宙の創造力という、この３つの創造力が人間の命の中で具体的に働いております。だけども、われわれは一般的に理性の創造力しか使っていないと。これは、どんな場合でもですね、まず創造的な仕事をしよう、創造的なことをしようとするなら、まずわれわれは理性で考えるんですよね。だから、まずはここから出発することになりますので、理性の創造力というのは、誰もが知っておる、理性で創造的ないろんなことをやっていくということは、誰でもやってることなので、知ってるわけですけども、だけども、理性の創造力というのは、これはなんなのかといったら、理性という能力は、これは今、自分が持っておる顕在能力です。今、自分の持ってる力で何ができるかというレベルの創造力なんですね。ということは、この顕在能力である理性の力でできる創造力というのは、今の自分の持っておる力の延長線上、すなわち改良、改革、創意工夫というね、そういう作為的なこの自分の今の力でできる仕事の内容であります。**

**だけども、本当のこのクリエーティブな仕事というのはですね、今ないものをつくり出すというね、そういうところに、その神髄というかですね、この価値がある。今までにないものをつくり出す。そして、道なき道を切り開いていく。それが時流独創といってですね、時の流れを俺がつくるというね、そういうこの次元の創造力であります。残念ながら、理性の創造力というのは、今、自分の持ってる力の延長線上の創造力なので、時流独創という、そういうこの道なき道を切り開いていく。今までなかったものをつくっていくという、そういうふうな原理的創造力にはなりません。だけども、創造的な仕事というものは、まず今、自分の持っている力で何かをし始めるというところからしか始まらないんですよね。そういう意味では、まずは理性の創造力という力をですね、持たなければならない。だけども、本当の創造という仕事に関わっていく場合には、必ず、今、俺の持ってる力でなんともならん。もう今、自分の持ってる力を全部使い果たしてしまったと。もう万策が尽きた。どうしようもない。そういう状況にまず、この陥るということがですね、本当の創造力が出てくる前提条件なんですね。**

**今、自分の持ってる力でなんともならん。だけど、なんとかしなきゃならん。このままでは終われないというね、そういう状況で、だけどなんとかしたいと思ってるとですね、その段階で、この命の創造力が目覚めてくるわけですね。命の創造力とはなんなのか。命の創造力というのは、書いてあるように、知恵の力。知恵とか、気付きとか、潜在能力が出てくるというね、それがこの命の創造力です。命の創造力というのは、理性という、この作為的な力が、その限界に到達することによって、生命というね、そういうこの次元での力が目覚めてくるという、そういう段階があるわけですね。これがこの知恵が湧いてくる、気付きが湧いてくる、あるいは、潜在能力が出てくるというね、そういうこの段階なんです。あの人はなかなかの知恵者だと。知恵というのは、これは知らんけどもわかってしまう。できないけどできてしまうというのが知恵なんですね。理性というのは、知ってることしかできませんけどね。だから、知恵というのは、こうしてみたらどうやとかね、こうなんじゃないかとかね、そういうふうにこの知らんでもわかってしまう、できないけども、今の力じゃできないけども、だけど、湧いてきて、できてしまうという、そういうこの次元の創造力なんですね。**

**そういうこの知恵を湧き上がらせる。気付きが湧いてくる。すなわち、固定観念、先入観念にとらわれない、何かその気付きが湧いてくる。それから、潜在する能力が出てくるというですね、そういうふうな、この力を持った、そういう創造力を持った人間になりたいと思ったならば、まずはどうするかといったら、今、自分の持ってる力でなんともならん。万策が尽きた。なんともならん。そこで諦めてしまったら、単なる作為的なこの小ざかしい、理性にこだわった創造力の段階で終わってしまう人間なんですね。それをこの自分という、個人の限界を超えたね、個人の限界を超えた、もう一歩、大きな仕事にこうなっていくという、もうその段階で、この命の創造力が湧いてくるという状況になる。命の創造力が湧いてくるためには、今、自分の持ってる力を全部使い果たしてしまって、今、自分の持ってる力でなんともならん。だけど、なんとかしたいと頑張ってると、今、自分の持ってる力でなんともならんのだからということで、潜在する能力があったら出てくる。なかったら出てきませんけども、あったら出てくる。そういう順番がくるわけですね。**

**じゃあ、潜在能力とはいったいなんなのか。潜在する、潜在能力って、いったいどこに潜在してるのか。知恵とか気付きはどこから湧いてくるんだ。場所はどこなのか。それが最近のですね、このヒトゲノムの研究という、遺伝子の研究からわかってきましてね、潜在能力がどこに潜在してるのかといったら、染色体だ。染色体の中に潜在能力は潜在してる。そして、潜在能力とはなんなのかっちゅうたら、染色体の中にある遺伝子のことなんですね。遺伝子が潜在能力なんだ。そのことがですね、この最近の遺伝子の研究、あるいはゲノムの研究でわかってきました。潜在能力が湧いてくるというのは、染色体の中から湧いてくるんですね。なんでそんなことが言えるのか。なぜ遺伝子が潜在能力だと言えるのか。それは遺伝子というものは、どういうふうにして新しくできるのかというね、新しい遺伝子ができるときのシステムをちゃんと理解すると、ああ、なるほど、遺伝子は能力が物質化したものなんだということがわかってくるわけですよ。遺伝子というのは能力が物質化したものなんだ。**

**どういうふうにして能力が物質化するのかというとですね、新しい遺伝子ができるときっていうのはですね、この生物の世界においては、環境の激変というものがなければならない。環境が激変しないところではね、よくテレビでやる、あのガラパゴス諸島の生物は、環境の激変がなかったが故に、この生きた化石といわれてですね、大昔の恐竜時代の形のままで、今もずっとそれが遺伝してですね、生きておって、全然進化してないと。生きた化石といわれるんですね。その命の形が変化するという、そういうこの進化、発展、成長というものが、命にできてくるためにはね、環境の激変というのもなければならない。環境が激変するとどうなるのかといったら、環境が激変すると、今、その生物が持ってる力では、もう生きられんという状況が出てくるわけですね。だから、多くの生物が環境の激変によって、種ごと絶滅するわけですよね。だけども、生物というのはなんとか生き残りたいと思って、必死になってその新しい環境に適用しようと思って努力するわけです。そういう努力してる中からですね、新しい環境に適用する能力を、この出すことができた生物だけが、命の形を変えて進化して、そして、生き残っていくという、そういうこの歴史をたどるのが生命の歴史なんですね。**

**じゃあ、そのときどういうふうにして命の形は変わるのか。生物の命の形というのは、どういうふうにして変わるのか。人間もですね、この人間の染色体の中には約３万個の遺伝子があるということがわかったんですけども、３万個の遺伝子があるっちゅうことは、人間は単細胞生物の段階から人間にまで進化するまでのあいだに、約３万回もその命の形を変えてきたということが、この言えるわけですね。３万個遺伝子があるということは、３万回も環境の激変があって、３万回も命の形を変えて、ようやく人間という命の形にたどり着いたっちゅうことですね。ですから、人間はおぎゃあと生まれ出てくるまでの十月十日のあいだにね、38億年という時間を十月十日に凝縮して、そして十月十日のあいだに、その単細胞生物が人間という命の形になるまでのあらゆる段階をずっとこう、その通り過ぎて、そして、おぎゃあと生まれてくるわけですね。だから、最近は、その子どもの、胎児の成長をね、ちゃんと外から映像として見るということができるようになりましたから、どういうふうに子どもの命が次々と細胞分裂を繰り返しながら変わっていくのかということが、手に取るようにわかるようになってきました。そのことによって、お母さんの胎内で人間の受精卵というのはですね、どんどん、どんどん、その形を変えていって、生命進化のプロセスをたどっておるということが、その10カ月ほど、映像でですね、追っていけば、ちゃんとこれを見ることができるわけですよね。**

**とにかく人間の染色体の中には３万個の遺伝子がある。遺伝子があるということは、３万回も命の形を変えてきた。すなわち３万回も環境の激変があった。そのことをですね、物語ってるわけです。環境の激変があるとどうなるのかといったら、生物は必死になって新しい環境に、この適用して生き残ろうとする努力をするんですね。ところが、多くの生物は、その新しい能力を出すことができなくて絶滅してしまうと。その中で進化して、命の形を変えて生き残るという生物は、どういうことをしたのかといったらですね、必死になって、今、自分の持ってる力では生き残れない。なんとか生き残ろうと思って努力をしてると、今、自分の持ってる力では生き残れないんだから、なんとか生き残ろうとしてると、その新しい環境に適用する能力があったら出てくるというね。そういう状況になってくる。そして、新しい能力が出てくるとどうなるかといったら、能力は、その能力を使わないと生きられませんので、新しい能力が出てくると、その能力が命の形を変えるという働きをするんですよ。これは機械でもね、新しい機能がその機械に加われば、確実にその機械の形は変わるんですよ。それと同じように、命においても、新しい能力、新しい機能が出てくると、その能力を命の形に表現しないと、その能力は使えませんからね。だから、能力が出てくれば、必ずその能力が新しい命の形をつくるという働きをするんです。そして、命の形が変わったとき、その情報が、このもう一度、染色体の中に完了していって、新しい遺伝子がまたつくられるというね、そういう状況になって、どんどん、どんどん、進化するごと遺伝子は増えるんですよ。**

**能力が物質化して命の形を変えるでしょう。その物質化した、その命の形が遺伝として固定化される。そのために、その新しくできた命の形が、情報として染色体の中に新しい遺伝子をつくるという、そういう構造になってるんですよね。そうすると、命の形が変わった、その次からは、その新しい命の形を持った子どもが生まれてくる。それは遺伝によって支配されますからね。そういう仕方でですね、新しい遺伝子ができる。だから、遺伝子というのは、能力が物質化したものなんだというふうにね、言うことができるんですよ。だけども、その潜在能力というのは、どういう形で出てくるのかといったら、その染色体の中にある遺伝子はね、１個の遺伝子が目覚めて知恵が湧いてくるという構造じゃない。知恵が湧いてくるという構造というのは、染色体の中に存在する全遺伝子が有機的に絡み合って、命は有機体ですからね、１個の遺伝子が物質みたいにぽんとこう、引き出されていくんじゃなくって、染色体の中にある全遺伝子が有機的に絡み合って、その相乗効果として、シナジー効果として出てくるのが、知恵、気付き、潜在能力、権限という、そういうこの現象なんですよ。染色体の中の全遺伝子が、染色体の中にある全遺伝子が有機的に絡み合って、その相乗効果として出てくるものが、知恵、気付き、潜在能力、権限だから、新しいこの答えなんですよね。染色体の中にある１個の遺伝子が出てきたんやったらね、それは古い個体なんですよ。古い考え方なんだ。**

**だけど、相乗効果として、この出てくるものは、まったく新しいこの能力なんですよ。シナジー効果ですからね、あったものが出てくるんじゃなくって、そのある遺伝子と、ある遺伝子の関係性から湧いてくるものは、それまでになかった新しいもんですからね。だから、この新しい問題に応えることができるというね、そういうことになって、命は進化するわけです。だから、人間でも、カエルさんから恐竜さんに進化するときにできた能力がね、人間の人生の問題に出てきてどうなるんやっちゅうことですよ。何ができるんやっちゅうことですよ。そうじゃないんだ。単細胞生物から人間にまで進化するまでの間にできた全遺伝子が、染色体の中で有機的にこの結び付いて、活性化して、相乗効果として新しい知恵が出てくるから、人生の問題に対応できるというね、そういう知恵になるわけだ。それがこの潜在能力、権限、知恵が出てくる、気付きが出てくるというときの、その構造なんです。そういうこの知恵や気付きや潜在能力がどんどん出てくるという人間になりたいと思ったら、すなわち、わからんけど、わかってしまう。できないけど、できてしまうという人間になろうと思ったらどうするか。そういう創造力のある人間になろうと思ったらどうするか。そのためには、今、自分の持ってる力を全部使い果たしてしまって、万策が尽きた。万策が尽きたけど、だけど、なんとかしたい。だけど、なんとかせんことには、なんともならんと思って頑張るということをしてると、知恵が湧いてくる。**

**ということは、いったいなんなのかといったら、今、自分の持ってる力の限界に挑戦する。今、自分の持っておる知力の限界、気力の限界、体力の限界に挑戦するということをしないと、潜在するものは出てこないということですね。今、自分の持っておる力で、できることしかしないで、今、自分の持っておる力でできないことは、できませんって言ってる人は、もう一生、命の創造力は出てこない。潜在能力は出てこない。知恵や気付きが湧いてくるという人間にはなれない。ただ理性で創意工夫、改良改革ということをすることができるだけだ。だけども、理性のね、改良改革、創意工夫だって、これは相当なことなんですよ。だけども、それは単に今の力の延長線上の創造力にすぎない。本当に原理的創造力といわれるものは、今の力の延長線上じゃない。原理から変わるんだ。そのためには、理性の力を超えなければならない。理性の力を超えようと思ったら、理性を使い果たしてしまわないと、理性の力を超えるものは出てこないんですね。だから、スポーツ選手でも、この世界記録を出すということはいったいなんなのか。それは今、自分の持ってる体力の限界に挑戦し、気力の限界に挑戦するというね、そういうことをするから、世界記録になるわけですよ。新しい力が湧いてくるわけですね。底力が湧いてくるというか、火事場のばか力が湧いてくるというか、湧いてくるという能力で世界記録を出すわけであります。すべて新しいものは、限界への挑戦。今、自分の持ってる力の限界に挑戦する。そのためには、今、自分の持ってる力でなんともならんというところまで、まずいかないと、新しいものは出てこないということなんですよね。**

**だけど、ほとんどの人はね、それができなくって、宝の持ち腐れで死んでしまう。人間に生まれてくればね、みんな３万個の遺伝子を持ってるんですよ。だけども、残念ながら、ほとんどの人が学校に行って、勉強をして、他人がつくった知識と技術を教えてもらって、それを覚えて生きていくだけで人生、終わってしまうんですよ。命から知恵が湧いてくる。本当の自分の力を出してないんですよね。学校に行って、他人がつくった知識と技術を教えられて暗記して、それを習って身に付けて、仕事をしてるだけで終わってしまうんですよ。自分で獲得したもんですから、その力では個人的な力だけで終わってしまう。だけども、命に潜在するね、この染色体の中に存在する遺伝子っちゅうのは、これは人間に生まれてきたらみんな持ってるもんですからね、これ、類の力なんですよ。だから、命から知恵が湧いてくる、気付きが湧いてくる、潜在能力が湧いてくるという人は、この限界を超えた大きな仕事ができる。個人的な能力の限界を超えた、人類の大きさを持ったね、類に属するような、そういうこの大きな仕事をすることができる。**

**なんで松下幸之助さんとかですね、本田宗一郎さんとかですね、アメリカでも鉄鋼のカーネギーとか、エジソンさんたち、ああいう小学校すら、ろくろく出てないような人がね、なんであんなでっかい大きな仕事ができるんだと。そして、大学や大学院を出た人間が、どうして人に、他人に使われっぱなしで人生終わるんだ。この違いはどこにあるのか。あんまりね、大学、大学院を出てしまうとね、今、自分の持ってるね、いわゆる理性で獲得したね、他人がつくった知識や、他人がつくった技術を獲得したって、量が多過ぎるんですよね。だから、ほとんどの問題がね、今、自分の持ってる力でなんとか対応できてしまうんですよ。だから、なかなか知恵が湧いてくる、順番がこない。だけど、松下幸之助さんとか、本田宗一郎は、なかなか、小学校すらろくろく出てない、小学校しか出てない、そういう段階だからね、今、自分の持ってる力の限界がすぐくるんですよ。もうすぐ今、自分の持ってる力でなんともならんというようになるんですね。だけど、なんとかせんことには生きていけへんと。なんとかせんないかんというんで、頑張ってると、そうすると、今、自分の持ってる力でなんともならんからというんで、すぐに知恵が湧いてくるんですね。**

**知恵というのは、類の力だ。人類に与えられておるのは、人類が持っておる遺伝子で、人類は皆、同じ数の遺伝子を持って生まれてくるわけですからね。だから、知恵が湧いてくるっちゅうことは、類の力が湧いてくる。だから、個の限界を超えた大仕事ができてしまうんですよ。べつにその松下幸之助や本田宗一郎さんや、鉄鋼のカーネギーやエジソンさんが偉いからできるんじゃない。今、自分の持ってる力の限界に挑戦することによって、知恵が湧いてきたから、あんな大人物になっただけの話なんだ。だけど、それはみんなが持ってる能力だからね、誰でもいってみれば、松下幸之助になれるし、誰でも本田宗一郎になれるし、誰でも鉄鋼のカーネギーになれるし、誰でもエジソンさんになれるんだ。なるためには、今、自分の持っておる力の限界に挑戦せんないかん。だけど、この限界への挑戦というのは、なかなか苦しいんですよね。ついつい人間、楽がしたい。だから、今、自分の持ってる力でできることしかしようとしない。多くの人間が、そういうこの怠け心でね、楽がしたいということになってしまって、このやすきに流れる、安逸をむさぼる、もうそういうこの堕落するというほどではないにしてもですね、その平凡な人生を終わってしまって、せっかく宝、せっかく命にですね、この出せば、すごい宝を持っておりながら、宝の持ち腐れで人生を終わってしまうんだ、ほとんどの人はね。**

**だけど、その人も限界への挑戦という生き方さえするならばね、必ずこの自分の力を超えた大きな何かができるというものをみんな持って生まれてきてる。これはみんな平等なんですから。だから、アインシュタインみたいなすごい仕事をする人と、ホームレスになってしまう人とも、全然、違いはないんですよ。どこが違うのかといったら、潜在能力を引っ張り出したか、引っ張り出さなかったかということですよね。だから、ホームレスになってしまう人というのは、今、自分の持ってる力でできることしかしようとしなかった。あるいは、今、自分の持ってる力でできることもしようとしないということなら、ますます駄目になりますからね。そういうことで、ホームレスになっちゃうわけ。だけども、アインシュタインみたいになってしまう人っちゅうのは、今、自分の持ってる力でなんともならん。だけど、なんとかしたいという生き様を貫いてくると、ああなってしまうんですね。人が知らんことがわかってしまう。今、自分でできんこともできてしまうというね、ことになって、歴史をつくってしまうんですよ、結果としてはね。**

**その意味で、知恵者は誰でもなれる。だけど、残念ながら、大学、大学院を出てしまうと、あまりにもたくさんの知識や技術を持ち過ぎて、今、自分の持ってる力でだいたいができてしまうということになってしまいやすいので、このなかなか今の自分の持ってる力でなんともならんという状況になりにくいので、知恵者にはなり難いというね、そういうことになってしまう。だからといって、大学や大学院、行ったらいかんっちゅうわけじゃないんですけどね。ソニーなんていうのは、あれはもう、ソニーは井深さんとか、盛田さんとかというのは、もう本当にその学者でもかなわんような、すごい深いこの知識、技術、教養を持ってらっしゃる方なんですけど、ソニーの体質はいつでも、その時代の知識と技術の限界に挑戦するという社風なんですよね。常にその時代の技術の限界に挑戦する。常にその時代の知識の最先端に挑戦していくという社風だから、常に世界のトップを走り続けるんですね。だから、要は、とにかくは、知識があろうとなかろうとね、とにかくは何が知恵者ということで大事なのか、何が命の持ってる創造力を使って生きていくことができるような人間にさせてくれるのかといったら、それは自分自身が、今、自分の持ってる力の限界に挑戦する、限界への挑戦という、この生き様を自分が人生において持てるかどうかですね。そのことによって、知恵者になれるか、宝の持ち腐れで死んでいくかが決まるわけですよ。**

**限界への挑戦というのはどういうことなのかといったら、その今、自分の持ってる力でなんともならん。だけど、なんとかしたいと思って必死に努力する。ということは、その状態というのは、本当にもう寝食を忘れて、時間を忘れて没頭するという、そういう、状態なんですよね。ということは、12時になったから飯を食わないかんとかね、５時になったから退社の時間や。そういうことを言うとったら、もう全然、見込みがないんだ。ああ、もうこんな時間になっちゃったのといってですね、気が付いたら、とっくにその時間、済んでおったとかね。研究し始めて、気が付いたらもう、要は白み始めてきたとかね。え、もうこんな時間なのって、そういうふうな仕方で、この、意識の持続性というか、集中力を持ってね、何かしらこう、頑張るというのは、そういうときを重ねていかないと、この知恵が湧いてくる構造が出ない。というのは、知恵が湧いてくるというのは、どういうふうにして湧いてくるのかって、知恵が湧いてくるルートは集中力なんですよ。集中力というのは意識の根の深さなんですね。時間を忘れて没頭するっちゅうことは、それだけ意識が持続的に働いてますので、意識の根がどんどんこう深まっていってですね、そして、染色体にまでその意識の根が届いたとき、その染色体の中にあるこの能力が、その集中力というルートを通って湧いてくるというね。そういう構造ができるんだ。**

**意識が染色体にまで届かないと、その染色体の中にある能力が湧いてくるルートができないんですよね。そのために、この意識の持続性というのは、ものすごく大事なですね、この潜在能力が湧いてくるときの条件なんだ。意識の持続性。細かくこう、寸断されてですね、どんだけ意識が続いてても、それは寸断される度に、元に、ゼロに戻ってしまいますので、深さが出てこないんですよ。だけど、持続的に何かをずっとやってると、その意識の根がどんどん、どんどん、深まっていってね、そして、意識というのは目に見えませんから、深まっていくっちゅうたって、そのべつに目に見えるようなもんじゃないですから、わからないかもしれませんけど、だけども、この人間の命というのは、全体がとにかく意識で支配されてるんですよ。顔なんかでも、**

**神経質な人は神経質な顔をしてるしね、な人はな顔をしてるんで、物体的世界というのは、全部、意識によって支配されてるんですよ。だから、この人間の意識が変わらないと、現実の社会は変わりませんよね。人間の意識の価値観が変わると、社会の価値観は変わって、社会に変化が出てくる。意識が物体的世界を支配するんですよ。だから、もう原理からいったら、自分の意識が本物になってきたら、なんでも叶ってしまう。なんでもそうなってしまう。意識が偽物で、この深みがないと、何事もうまくいかないと。だから、本当に俺、絶対こうなりたいと思ったら、そうなってしまうんですよね。**

**なんかちょっと、交通事故が起こりそうだなと思うと、起こったりするんですからね。なんかぶつかっちゃうんじゃないかなという予感がすると、ぶつかっちゃったりするんですよ。意識がね、現象を引き寄せるんですね。変なもんなんですよ。こうなっちゃうんじゃないかと思ってしまうと、なっちゃうんですね。絶対に俺なんかは成功できひんと思ったら、絶対成功できませんからね。意識が全部作用してるんですよ。絶対成功するんやと思ったら、成功するんですよ。成功せんかもしらんと思ったら、もう成功しないんですよね。こんなことはありようがないと思ったら、絶対に起こりませんしね。起こるかもしらんと思ったら、起こる可能性が出てくる。全部、世界は意識によって支配されてるんですよ。だから、意識を持続的に長くこう、使っていくと、意識の根の深さができてきてね、で、その意識の根の深さが染色体にまで届くと、染色体の中にある遺伝子が、この目覚めて出てくる。そういう構造ができるんだ。意識が深くなっていくときというのは、自分が一心不乱に、全精力を注ぎ込んで何かをしてるっちゅうときが集中力という、そういう状況ですのでね。そのときというのは、必ず染色体の中の遺伝子は活性化してるんですよ。そのときに、意識の根が染色体にまで届いてくると、その集中力というルートを通って、潜在する能力、知恵が湧いてくるというね、そういうことが起こり得るわけです。**

**これは、そういう努力をしたら、誰でも類の力を持って人生を生きる、仕事をするっちゅうことができますから、これは自分が頭が悪いとか、頭が悪くないとか、そんなこと全然関係ないんですよ。頭の良し悪しは、これ、後天的なことですからね、勉強したか、せんかの話で、知恵は勉強せんでも湧いてくるんですから。かえって勉強せんほうが湧いてくるんですから。なまじっか勉強してしまうと、なかなかその限界がきませんからね。案外とね、世の中にはね、学生時代、ぐれてね、暴走族やったっちゅう人がね、いったん目覚めて授業を真面目にやり始めるとね、すごいことをやってしまう。大経営者になってしまうっちゅう人、案外多いんですよ。特に創業経営者は、そういう人、多いですよ。案外と大学や大学院を出てしまった人は、全部ね、ほとんどの人がサラリーマンで終わってしまう。なかなか知恵が湧いてきませんからね。類の力で勝負をする人生にならないんですよ。知恵で生き始めないとね、千変万化する現実に対応できない。自分が学校で習った知識や技術や教養というのは、古い過去のもんですからね、過去のもんでは、新しい状況に対応できないんですよ。新しい状況に対応するためには、相乗効果として湧いてくる知恵が大事なんですね。**

**その命から湧いてくる知恵でもなんともならん。知恵でもなんともならん。人類に与えられた類の力でもなんともならん。だけど、なんとかしたいと思って頑張ってると、今度はどうなるかといったらね、宇宙が目覚めてくれるんです、宇宙が。これはまたすごいことでね、宇宙が目覚める。知恵でもなんともならん。だけど、なんとかしたいと思って頑張ってると、今度は宇宙が目覚めてくる。実際、人間の命の中には、宇宙の力が働いてる。宇宙の摂理によって、われわれの命は生かされてるんですからね。それが寝ておっても死なないと。寝ておっても生きておるということは、生きとるんは、命は自分で生かしてるんやない。命を生かしてくれてる力は、自分**

**と違うもんやっちゅうことですよ。じゃあ、その命の、命を生かしてるのはいったい誰が生かしとるんやといったら、それは命をつくった宇宙ですよ。宇宙の摂理の力が、寝ておっても命が死なんように支えてくれてる。それが生かされて生きておるっちゅうことですよね。完全に人間の命には、常に宇宙の力が働いて、われわれは生かされて生きてる。なかなかその宇宙の力が、自分の意識としてこう立ち上がってくるというかね、意識にまで、その宇宙の力が顕在化してくるということは、なかなかこれはない、難しいことなんですけども、だけども、人間はそこまでいけるんですね。**

**宇宙の力とはいったいなんなのかと。宇宙の力というのは、わかりやすい言葉で言ったら、進化の力。あらゆるものを進化させる力が、宇宙の力。生物が、命が進化するのは、宇宙の創造力、宇宙の力によって進化するんですね。だから、宇宙こそまさに創造力の原点。宇宙はその宗教的に言うと、宇宙を創造主というように言いますよね。あらゆる神話の出発点は、その宇宙が国をつくったりするところから始まるんですよね。だから、宇宙こそまさに創造力の原点なんだ。宇宙の中に存在するものは、全部、宇宙がつくったんですから、宇宙はまさに生む力、あらゆるものを生む力の原点は宇宙なんですよ。われわれも宇宙の創造力によって生み出されたものの一つだ。宇宙こそまさにクリエーティブな力の根源なんですね。だけど、宇宙は答えは出してくれないんだ。理性とか知恵は答えを出してくれる。宇宙は答えを与えてくれない。じゃあ、宇宙はどういうふうにして、創造的な仕事を人間にさせてくれるのかといったら、宇宙は問題を与えてくれるんですよ。問題とはなんだ。問題とは創造的な活動を促す現象なんですね。問題が出てこないと考えませんからね。問題を与えてくれるということは、創造的な活動を促す現象である。すなわち、問題を与えるということは、その人を成長させようという宇宙の愛なんだ。**

**これは前々からお話をしてますけども、問題、悩み、苦しみは、人間を苦しめるために出てくるんじゃない。問題、苦しみ、悩みは、その人を成長させてあげようとする母なる宇宙の愛だ。だから、母なる宇宙は、命を成長させるためにどういう問題を与えるのかといったら、環境の激変だ。ひょっとしたら、その命は絶滅するかもしらんというような問題を与える。そのことによって、命は進化するんですね。問題はその子を成長させようと思って、母がその子に与える愛なんですよ。苦しみも悩みも愛なんですよ。苦しみ、悩み、問題がなかったら、人間は成長しません。新しい気付きも、新しい能力も出てきません。一般的には問題もない、悩みがない人生を幸せといってますけど、それは理性によって考えた幸せなんだ。本当の幸せは、問題や悩みを乗り越える力をつくっていくことによって、本当の幸せを獲得できる。問題がない、悩みがない、そういう状態の幸せというのは、これは単に楽がしたいだけの幸せでね、かえってそれは人間においては堕落への道なの。**

**実際問題、問題もない、悩みもないって状態でね、生活しておったらね、どんどん、どんどん、その人は落ちぶれてしまいます。問題もない、悩みもないっちゅうことは、考えんでもいいっちゅうことなの。なんも努力せんでもいいっちゅうことなの。結果的にどんどん、どんどん、落ちぶれていってしまう。そこには成長はない。問題が出てきて、悩みが出てくるから、人間はなんとかしようと思って頑張って、そして、この成長して、新しい気付きを持って、そして、新しい能力が出てきて、よりよい生活ができるようになっていくんですよね。とにかく母なる宇宙は、自分の生んだ子どもたちを成長させるために、環境の激変というこの問題を与える。それは子どもを成長させようとする母の愛だ。人間における使命というのは、苦難とともにやってくる。人間が志をね、持つときには、どういうふうにして志を持つのか。今、人類が何か悩んでる問題があったならば、その人類の悩みを俺がなんとかしたろうやないか。そういうふうにして、大きな人生の課題をつかむんですね。**

**今、国家が何かしら、大きなこの問題があって、悩んでおったとするとね、そうすると、その国家的課題を俺がなんとかしたろうやないか。そういうふうな形で立ち上がってくる。それが明治維新のあの志士たちの活動ですよね。国難に対してね、俺とは関係ないというような、そういうことじゃなくって、俺がその国難に対して何か立ち上がって、その国難を解決しよう。そういう人たちが、ああやってこう活動して、歴史をつくるわけですね。使命、命の使いどころ、本当に生まれ出てきたこの意味をですね、生かす、命を生かす生き方というのは、苦難とともにやってくる。自分の身に降り掛かるね、この降り掛かる苦難の中に使命がある。問題とともに使命がやってくる。悩みとともに使命がやってくる。悩みと問題によって志が立てられるんですね。問題も悩みもなかったら、志の立てようがない。何してええか、わからない。問題がなかったら。問題があるから、よっしゃ、それを俺がやったろうやないかと、こうなってきますからね。そこで初めて志が、生きる目的が定まってくるわけですね。**

**宇宙というのはそういう問題を命に与えてくれる。問題というのは創造的な活動を促す現象なんだ。この宇宙が人間に問題を与えるっちゅうことで、一番有名なのはニュートンさんですよね。ニュートンさんっちゅうのは、リンゴはなんで上から下に落っこちるのかっちゅうようなことをこう、言い始めた、考え始めたっちゅうんですけど、リンゴはずっと昔から、上から下に落っこち続けておったんですよね。だけど、誰もなんでリンゴは上から下に落っこちるのか、そんなばかばかしいこと、誰も聞いたことがない。当たり前やと思っとったんですよね。だけども、なんでリンゴは上から下に落っこちるのか、なんでものが上から下に落っこちるのかっちゅうことを考えないと、人類はそこで歴史が終わってしまうというような状況を迎えたんですよ。それがために、宇宙は人類を成長させる、その必要性から、なんでものは上から下に落っこちるのかって、そういう問題を与えたんですね。だから、そういう問題を考えたら、ニュートンだけやない。ガリレオ・ガリレイもね、ピサの社長じゃない、ピサの斜塔に登ったりしてね、ものを上から下に落っこちさせたりして、その加速度の法則を見いだしたりしてね。あのときというのは、ほとんどの人たちが、なんでものが上から下に落っこちるのかって、そういうこの引力とか、そういうこの力学のね、そういう基本原理をですね、この発見するような、そういう活動を、そういうこの研究をやったんですよ。そのことによって近代科学が生まれてね、その結果として、宇宙にまで飛び出していけるというような、そういう科学力を人類は持つことができた。その出発点が、あのニュートンさんの万有引力の発見だった。だけど、ニュートンさんだけがそういう問題を持ったんじゃなくて、その時代に生きるすべての人に、なんでものは上から下に落っこちるんだろうという、そういう問いがこの母なる宇宙によって人類に与えられたんですね。**

**とにかくそういうふうに考えていくとですね、創造力というものは、この３つの種類がある。実際問題、われわれは考えるときに、まずは問題が湧いてくるわけですよ。なんでやろうな。もうちょっとなんとかならんかな。なんか納得できんな。そういうところから考え始めるわけですよね。そういうふうな、なんでもないちょっとした疑問でも、それを全部ね、原理からいったら、宇宙の根源から湧いてきてるんですよ。なんか納得できんな。これ、湧いてくるんですから、人智を越えたところから湧いてきてるんですよ。常にわれわれは、そういう宇宙との関係性でね、この新しい問題を獲得するんですね。そのことによって人間は成長できる、会社も発展する。会社に対するクレームがその会社を発展させてくれる。クレームのない会社は発展しない。そのクレームを無視すれば、三菱自動車みたいになってしまうと。完全に社会的信頼、信用をなくしてしまう。クレームを、クレームに対して誠実に応え続けるということが、会社発展の方向性を教えてくれてるわけですね。問題が出てこなければ、真の意味での時代の要請に応える成長はできないですね。**

**だから、この自分の命から湧いてくるちょっとした問題意識でもね、それは宇宙の根源から自分を成長させるために、母なる宇宙が愛故に自分に与えてくれた問題なんだという、そういうこの受け止め方をすることがものすごくこの大事で、それが自分に本当の幸せ、本当の成功をこう与えてくれるんですよね。とにかく創造力というものには、この３つの種類があって、この３つの種類の創造力で、われわれはいろんな創造的な仕事をしてるわけですね。そして、あの有名なNHKの『プロジェクトX』ね、あの不可能を可能にした男たちのドラマはね、まさにこの命から湧き上がる知恵、気付き、潜在能力。今、自分の持ってる力でなんともならん。だけど、ここでくたばってなるものか。ここでやめられへん。なんとかせんことには示しがつかんというね、そういうこの状況で、なんとかしたいと思って頑張ってる。そうすると、この知恵が湧いてきて、あの歴史に名をとどめるような業績が上がってくるというね、そういうことにこうなるわけですよね。あの『プロジェクトX』の世界で、このいろいろな不可能に挑戦した人間たちというのは、みんな今、自分の持ってる力じゃなんともならんという状況に、まずはぶち当たるんですよね。今、自分の持ってる力でなんともならん。だけど、なんとかしたい。だけど、なんとかせんことには沽券に関わる。このままでくたばってなるものか。そういうところから、この頑張り続ける。そうすると、今、自分の持ってる力でなんともならんのだからということで、潜在する能力があったら出てくるっちゅうことでね。ああいう大きなドラマが生まれるわけですね。**

**とにかくどんな人の命の中にもね、この理性の創造力と、生命の創造力と、宇宙の創造力は働いてくれてる。そして、理性の創造力なんていうようなものは、命の創造力や宇宙の創造力からしたら、本当に薄っぺらなもんだ。本当にわれわれは、命の創造力と宇宙の創造力の力を自分のものにして生きなければ、本当に素晴らしい人生、価値ある人生、自分の人生というものに花を咲かせることはできない。理性というのは、他人がつくった知識や技術を学んだんだ。本当の俺の力は命から湧いてくる。他人の力に頼って生きとるような、そんなこの、惨めなね、だいたい言わんとすることはわかりますよね。どういうことかっちゅうことはね。そういう他人がつくったものを学んで、そして、この生きとるようでは、本当の自分の人生を生きとるとは言えんと。自分のこの個体的な命から湧き上がってくる、この潜在する力をもってして、初めてわれわれは、自分の人生を生きたと言えることになるわけですね。**

**じゃあ、そういうこの理性の創造力、生命の創造力、宇宙の創造力というものを使って、自分の人生を生きていく。また、仕事をしていく。そのためには、どういうこのことをすればよいのか。実際にこの創造力というのは、どうしたら自分が持てるのかということですね。どうしたら自分が創造的な力を持った人間になれるのか。そのためにもですね、創造力のつくり方として３つの方法がある。第１番目は、個性に基づく創造力。すなわち、俺にしかできんと。ほかの人間にはできん。俺にしかできんというね、そういうこの創造力を持って人生を生きようと思ったら、どういうことをしたらよいのか。どういう努力をしたらよいのか。この個性に基づく創造力、個性というのは自分だけのもんですからね、俺にしかできんという創造力をどうしたら自分は持てるのか。そのためにまずですね、天分というものに目覚めなければならない。天分というのは、生まれながらにその人間が宇宙から与えられた能力なんですね。しかも天分というのは、天の仕事の一端を担い得るほどの価値のある素晴らしい、そういうこの能力なんですよ。天分というのは能力の個性なんだ。人間、能力というような個性がある。**

**先ほどは、人類に生まれてきたならばね、みんな同じ数の遺伝子を持ってるんだということを申しました。数のうえで皆平等なんですよ。数のうえで皆平等なんだけども、だけども、自分の染色体の中にある一個一個の遺伝子にはね、質の違いがある。この遺伝子は比較的他人よりも得意、よくできる部類の能力。この遺伝子は他人よりも駄目な能力という、そういうね、一個一個の遺伝子にね、それぞれ質の違いがあってですね、３万個の遺伝子全部に質の違いがありますから、それがですね、有機的に絡み合って相乗効果として出てくれば、完全に個性になるわけですよ。その３万個の遺伝子の組み合わせっちゅうのはね、これはもう本当にもう天文学的数字より、もっとすごいこの可変性というかね、そのさまざまな表れ方をします。人間にはみんな天分があるっちゅうことをね、これも、もう何回もこの今日までここでお話をさせていただいたことですけども、人間には天分がある。それはどうしてわかるのかといったら、皆顔が違う。顔はもうすでに世界でただ一人、オンリーワンなんですよね。顔というのは個性の象徴なんですよ。顔が一番、個性を端的に象徴するもんです。顔が違うということがね、自分にはほかの人間ができない何かができる。俺にしかできんことがある。そのことをですね、顔は証明してるんですよ。**

**どうしてかといったら、顔はなんで決まるんだ。顔を決定するのは遺伝子だ。遺伝によってほとんどの人間の顔の基本的な形は決まってしまう。顔は遺伝子によって決定される。遺伝子とはなんなのか。遺伝子は能力が物質化したもんなんだ。ということは、顔を決定してるのは自分の能力だ。顔には個性がある。だから能力にも個性がある。これは三段論法だ。最もわかりやすい論理だ。顔はみんな違う。顔を決定してるのは遺伝子だ。遺伝子とは能力が物質化したもんだ。だから、顔が違うっちゅうことは能力が違うんだ。どんな人も顔が違う限りは、俺にはほかの人間ができない何かができる。俺にしかできんことがある。俺には天分が与えられておる。それは証明されてるんだ。だから、天分のツボにはまれば、誰でも世界一になれる。オンリーワンかナンバーワンか、なんらかの意味で人間は世界一になれる。その能力をみんな与えられてるんだ。**

**だけども、能力は潜在能力だ。天分はあっても、潜在してるんだ。それを顕在化させなければ、有っても無きがごとし、無きに等しい。ほとんどの人間は、天分を生まれながらに与えられておりながらも、その天分を顕現させることなく死んでしまうんですよ。なぜだろう。それは潜在能力を引き出すためには、限界への挑戦という、この努力をしなければならない。だけども、ほとんどの人間は、限界への挑戦という努力を自ら惜しんで、楽をしてしまう。自分の力の限界に挑戦していくという、この激しい生き方をしない。であるが故に、顔がせっかくこの、おまえにはおまえにしかできんすごい能力があるんだっちゅうことを教えてくれてるのに、それを現実化することなく、ほとんどの人は死んでいってしまう。だけども、その努力をするならば、誰でも自分が世界一になる能力を顕現させて、具体的に歴史に名をとどめて、多くの人の役に立って、そして、この人生を終わる。そういうですね、生き方が誰にでもできる。そのことを証明してるのは顔なんだ。顔は世界でただ一人、オンリーワンだ。だから、能力もオンリーワンなんだ。俺には俺にしかできんことがある。俺には他人のできんことができる。だけども、それは潜在してる。残念ながら潜在してる。潜在するものは顕現させなかったら、有っても無きに等しい。それが故に、この俺にしかできんという、そういうこの時流独創のね、時の流れを俺がつくる。そういう生き方をしたいと思ったら、われわれは、まず今、自分の持ってる力の限界に挑戦する。知力の限界、気力の限界、体力の限界に挑戦する。そういう生き方をですね、しないと、残念ながら、世界一になる可能性を持った能力も、姿を現さないまま朽ち果てて死んでしまう。**

**この個性に基づく創造力というものには、ほかに性格とか癖があるわけですね。性格というものもね、これも個性を表現してるもんですし、癖というもんも個性を表現してるんですよ。だいたい野茂とかですね、イチローとかっていわれる、ああいう野球の大選手たちは、どうしてああいう大選手になったのか。あれは癖を磨いたんだ。普通はね、理性で考えると、癖は直さないかんとこう、思われておるんですよね。だから、下手なコーチに出会ってしまうと、癖を直されてしまってね、平凡な人間になってしまって、この本当のその力を摘まれてしまう。個性を摘まれてしまう。癖を直されてしまうからね、個性がなくなる。だけども、この癖こそまさに天分の表現、癖こそまさに、この個性の表現というね、そういうこの理解で接してくれるコーチがですね、その癖を直さないで、ますますその癖に磨きを掛けていって、そして、その癖から無駄な部分を取り除くことによってですね、その個性ある能力を引き出すという、そういうことをしてできたのが、野茂のあのハリケーン投法でありね、また、イチローのあのどんな球にも即座に対応できるね、柔軟な打法というものが、そういうふうにしてこうつくられてくるわけですね。それが個性のある形というものをね、この引き出すわけであります。**

**それから、２番目の固定観念の破壊に基づく創造力。これは、ほとんどの人がね、創造力、創造力と言いながらも、今、自分の持ってる知識や技術で考えてしまう。固定観念で考えてしまうから、固定化されてしまって、創造力は出てこないんですね。今、自分の持っている常識や知識や技術や固定観念、先入観念という、今、自分の持っておる力で考えてしまうから、創造的な仕事をしようと思っても、絶対に創造的な仕事はできない。じゃあ、創造的な仕事をしたいと思ったら、まず何をしないといけないかといったら、常識で考えておったら何も変わりませんから、常識を考えるということをせんといかんと。常識を考える。常識を考えるってどういうことなのかといったら、これはこうなんですとこう、断定的に言われたらね、必ずね、疑わしくなくっても、なんの疑問もなくってもね、一応、とにかくは、これはこうなんですと言われたら、果たしてそうであろうか。本当にそうなのか。本当にこのままでよいのかとこう言ってみないといけない。これが常識を考えるっちゅうことなんですよ。これはこうするもんですと言われたら、果たしてそうであろうか。本当にそうなのか。本当にそのままでよいのかとこう、言ってみるんですよ。**

**なんでそんなこと言わないかんねん。それは今から100年前はちょんまげだった。今から50年前は敗戦で焼け野原だった。30年前のニュースフィルムを見たら、昔はあんなんだったって、笑っちゃうなっていう世界になってくる。10年ごとにね、時代は激変するんですよ。100年前はまだちょんまげだったんだ。そのとき、それをこんな時代に変えたのは、そのとき生まれ出てきた子どもたちだ。50年前は敗戦だった。それをこんな素晴らしい建物が建つ時代にしたのは、そのとき生まれ出てきた子どもたちだ。こんなに変わっちゃうんですよね。だから、どんなものでもね、このままでいいのかといったら、このままでいいわけはないだろうというね、そういうことになってくるわけですよ。また学問の世界でもね、今、百科事典に書いてあることは、今の時代で真理だといわれてることが百科事典に書いてあるんですけど、だけども、学問の世界ではどういうふうにいわれてるかといったら、今、百科事典に書いてあることは、30年たったらね、30年たったら、50％は全面的に書き直ししないと載せられない。あとの30％は部分的に修正しないと載せられない。今、百科事典に書いてあることがですね、その30年たってもね、そのまんま東と申しましょうかね、『さんまのまんま』で、そのままで載せていいっちゅうのはね、せいぜいあって20％もないっちゅうんですよ。今、真理だといわれてることも、30年たったら、80％はうそになるんですよ。**

**だから、どんなに正しそうに見てることでも、どんなに正しいことでも、どんなに真理でもね、いっぺんは、とにかくは、十分に疑ってみる価値はあるんですよ。今の真理の80％が30年たったらうそになるんですから。それが学問の進歩なの。100年前はちょんまげだったんだ。誰がこんなに変えたんやと。誰かが変えたんですよ。100年前にあったものは、何一つ、現実の生活の中にはないんですよ。それぐらい、めちゃめちゃ変わってしまうんですよ。わずか100年で。全部が変わるんですよ。あらゆるものが、その形を変える、機能を変える、無いものが出てくる。こんなに変わるんだからね、今のままでいいっちゅうわけは絶対ないんやと。だから、常識を考えるということは、重大なこの今を生きる力なんですよ。このままでいいっちゅうのは何一つないんだ。でも、ほとんどの人たちは、今、自分の持ってる知識で考えてしまう。固定観念を使って考えてしまうから、創造はできない。創造というのは、破壊する力がなかったら、創造できないんですよね。破壊することができる人間にしか、創造する力は生まれてこない。破壊するエネルギーが創造するエネルギーをつくるんですよ。壊さなければ、新しいものができるはずはないですからね。**

**そのためにパンク精神、破壊するというね、パンクが非常に大事なの。とにかくぶっ壊せと。ぶっ壊せないと、新しいものは出てこない。そのために常識を考える。本当にこのままでよいのかと言われたらね、歴史を考えるならば、本当にこのままでよいのかと言われたら、どんなことでもね、これはこのままでいいわけがないわなとこう、言わなきゃならんことになってくるんですよ。だんだんそれがですね、自分の中でちゃんとこう、そういう気持ちが出てくるとね、みんなはええと思っとるかしらんけども、俺はなんか、そう言われれば、ちょっと違うかなというね、そういうこの今あるものに対する疑問が湧いてくるんですよ。そう言われれば、ちょっとおかしいかなというようなね、そういうこの疑問が湧いてくる。その湧いてくるっちゅうことは、それはこの自分の感性からこう湧き上がってくる現実に対するそういう問題意識なんですよね。その問題意識に自分が納得できる形を与えていったらね、確実に時代は動くんですよ。このままでいいって言ってる限りは、時代は動きませんけどね、なんかおかしい、なんか納得できん。それに形を与えていって、自分が納得できる状態にすれば、時代は動くんですよ。**

**そういう常識を考えるということをしないと、ほとんどの人は、今、自分が持ってる知識や技術に支配されてますから、結局それは文明に飼いならされた家畜の状態で終わってしまう。本当にこのままでよいのかと言った人間だけがね、自分の命から湧いてくる感性の実感というものにたどり着くことができて、そして、その感性の実感というのは、まさに未来からの声、あるいは、この未来が今に出てきたという、そういうものがですね、感性の実感なんです。理性でつくったものは現実なんですよね。ところが、現実は常に動いておる。そして感性から湧いてくるものは、未来から出てくるんだ。常に現実には未来が働いておりますからね、それはどっから出てくるかといったら、感性から湧いてくるんだ。感性から湧いてくるこの実感というのは、感性の実感というのは、まだ文明によって毒されていない。文明によって飼いならされていない。文明に毒されていない、野獣の心、野生の魂、この文明に毒されていない感性の実感に形を与えることによって、われわれは未来をつくるというね、そういう仕事ができることになるわけですね。とにかく常識で考えておったら何も変わらん。常識を考える。そのことによって、自分の命からこの未来である感性の実感を呼び覚ます。そして、自分の実感に形を与えれば、それが歴史をつくるということになるんだ。そういう仕方でですね、この時流独創という創造力を持つことができます。**

**最後のこの使命への自覚に基づく創造力っちゅうことですけど、人間にはみんな、この一人ひとりね、他の人間にはない使命が与えられてるんですよ。この今、個々で何をしなきゃならんかというね、今すぐにでもやらないかん使命というものを自分に教えてくれる現象があるんですよね。それはいったいどういう現象なのかといったらね、今、自分のやってる仕事を一生懸命にやる。今、自分に与えられておるものを一生懸命にやる。すると、現実というのは常に不完全ですから、現実に対して真剣に関わればね、必ず現実は不完全ですから、そこから問題意識が湧いてくるんですよね。これを現実への違和感というんですね。現実への違和感。現実に対して真剣に関われば、必ずそこから現実への違和感という感性への実感、問題意識が湧いてくる。現実への違和感とはなんなのかといったらね、本当に真剣に仕事をし始めるとね、ここのところ、なんかもうちょっとなんとかならんのかとこう言いたくなったりね、ここのところ、なんか納得できへんな。ここのとこ、なんかおかしいんやないかな。ここのとこ、もうちょっとぴったりこんな。そういうふうなね、この違和感というのが湧いてくるんですよ。いいかげんな仕事の仕方をしてる人間から出てくるものは不平不満だ。だけども、現実への違和感というのは、自分の命に問題を課する現象なんですよ。なんとかならんのか。これは他人に文句を言うとるんやない。自分に対してなんとかなったらな、なんとかならんのか。なんか納得できへんなと、自分の命に問題を課するような、そういう現象なんだ。これがこの自分の使命を自分に教えてくれてるという、そういうことなんですよ。**

**というのは、どういうことなのかといったらね、今、自分のやってる仕事の中から、ここのとこ、もうちょっと便利にならんかなという、そういうこの違和感が出てきますよね。これはなんなのか。おまえこそ、まさにそこのところをもうちょっと便利にするためにこの時代に生まれてきたんや。おまえが今、そこにおるのは、それをするためなんや。今それをせんかとこう、天が教えてくれてるわけですね。なんか納得できんな。おまえこそ、まさにそれを納得できるものにするためにこの時代に生まれてきて、そこにおるんだ。おまえが今、そこにおる存在理由は、それをすることやとこう、天が教えてくれてる。そういう現象がこの現実への違和感というね、感性の実感なんですよ。ほとんどの人がね、その重大さをわからんと、なんかもうちょっと便利にならんかな。いいかでいってしまうんですよね。いったらいかん。立ち止まって、どうしたらもうちょっと便利になるんだろう。そこからね、この現実を動かす、歴史をつくる仕事が始まるんですね。**

**ノーベル賞をもらうような研究でも、全部、どこから始まるんかといったらね、みんなそれでええと思っとるかしらんけど、俺はなんか納得できへんと。なんかちょっとおかしいな。そこからみんな研究が始まるんですよ。だけど、ほとんどの人はね、みんながそれでいいと言うとるんやから、俺が納得できんっちゅうことは、俺の頭が悪いんやろうと思ってね、諦めてしまったりする。だけど、いったん諦めても、また出てくる。なんかでも、おかしいなと。それがね、ノーベル賞をもらうような大研究にこう発展していくんですよ。みんな現実への違和感からね、始まるんだ。ちょっとしたね、この仕事をしながら出てくる、そういうこの現実への違和感という問題意識。なんか納得できへんな。なんかおかしいな。なんかもうちょっとなんとかならんのかな。なんかちょっとぴったりこんな。そういうものをもっともっと大事にしてね、それをなんとかしようと思ったらね、必ずね、その人は、これは俺がやった仕事や。これは俺がやったことやっていうね、そういう命の刻印を歴史に刻んで死んでいく。そういう生き方ができるんですよ。そういうふうにして創造力という能力はつくるもんなんだ。とにかく今は自分の仕事をやってる中から湧いてくる問題意識、現実への違和感という問題意識、これは自分に使命を付けてくれてる、天の啓示、天啓の一瞬なんだということをね、忘れてはならない。**

**母なる宇宙が、自分の命に価値を与えんとして、与えてくれてる問題だ。そのことを忘れてはならない。お母さんは、自分が産んだ子どもたちは、みんな輝いてもらいたいんだ。だから、一人ひとりに問題を与えてくれるんだ。問題がなければ成長はないからね。それが母なる宇宙の愛なんだ。というふうに解釈して、その問題に挑戦していくというね、そういう生き方をぜひね、持ってもらいたい。とにかく、創造的な能力をつくっていこうと思ったら、３つしかない。天分に懸けるか。固定観念を破壊するって、パンク精神でやっていくか。あるいは、この現実への違和感という問題意識に人生を懸けるか。この３つの中のどれかから入っていくしかない。中に入っていったら、理性の創造力と生命の創造力と宇宙の創造力が力を貸してくれて、自分に偉大な仕事をさせてくれる。これが時流独創というね、生き方の基本原理であります。ぜひこれは、皆さん方の頭の中だけで収めるんじゃなくって、自分の子どもに教えてあげてもらいたい。孫にも教えてあげてもらいたい。そして、すごい素晴らしい生き方ができるね、子どもたちをこの日本からどんどんと世界に出してもらいたい。そして、日本がアメリカに代わる人類の指導者として、素晴らしい生き方ができるようにね、ぜひ頑張ってもらいたい。もちろん、諸君もまだまだこれからですからね。ぜひこういうことを原理にしながら、自分の生き方というものをね、もう一度、考えて、素晴らしい人生を歩んでもらいたいと思います。ありがとうございました。**